

366.1
N772
3



0037460-000

366. 1-N772-3ウ

労働保護法規集

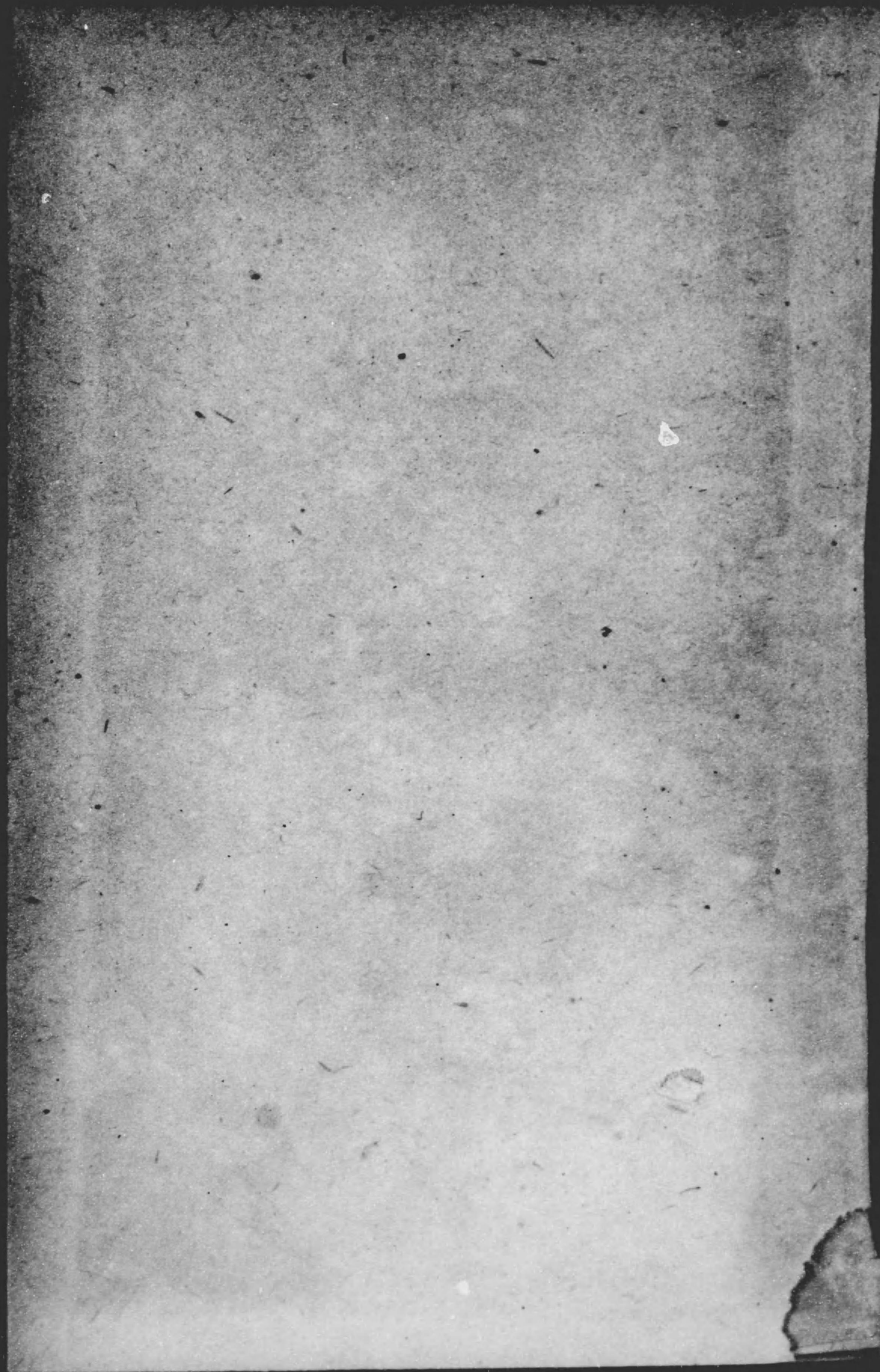
厚生省労働局・監修

大日本産業報国会

昭和16

AGF

366.1
N772
3



366.1
N972
3

昭和十六年七月二十三日



労働保護法規集

大日本産業報國會



923
27

はしがき

一、本法規集は工場、鑛山、各種事業場、商店等に於ける勤勞者の保護に關係ある法令及重要通牒を収録したものである。社會保險の領域に屬する法令も一部分採り入れられてゐるが、事變後著しい發展を遂げた勞務統制乃至勞務配置に關する法令は本法規集の範圍外である。

一、本法規集は厚生省勞働局、保險院社會保險局其他の關係官の嚴密なる校閲を経たものであり、極最近制定乃至改正せられたものをも包含してゐる。従つて關係官吏、工場事業場等の勞務關係者其他の勞働問題に關係を有する人々にとつて頗る利用價値の大きいものであると信ずる。

一、附録「事項索引」は厚生省勞働局横大路事務官の執筆に係るものである。

一、本法規集は今後必要に應じ改訂が加へられ、江湖の期待に背くことがないであらう。

昭和十六年八月

勞働保護法規集 目次

工場法	一
工場法施行令	九
工場法施行規則	四一
國家總動員法(被率)	七三
工場就業時間制限令	八〇
工場就業時間制限令施行規則	八三
工場就業時間制限令第二條ノ事業指定	八六
青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル件	八七
工場危害豫防及衛生規則	八八
工場危害豫防及衛生規則施行標準	一〇〇
工場附屬寄宿舎規則	一三六
鑛業法(被率)	一三五
鑛夫就業扶助規則	一四三

礦夫就業扶助規則第十一條ノ二ノ特例ニ關スル件	一八三
女子ノ坑内就業ニ關スル礦夫就業扶助規則第十一條ノ二第一項ノ特例ニ關スル件	一八四
技能者養成ノ爲ノ礦夫就業扶助規則第十一條ノ二ノ特例ニ關スル件	一八五
鑛業警察規則	一八六
石炭坑爆發取締規則	二四〇
砂鑛法(拔萃)	二四七
砂鑛業ニ於ケル雇傭就業規則及砂鑛夫名簿等ニ關スル件	二五一
工業労働者最低年齢法	二五三
工業労働者最低年齢法施行規則	二五六
傭人扶助令	二五九
供給労働者扶助令	二六六
賃金統制令	二六七
賃金統制令施行規則	二七九
賃金統制令第三條第二項ノ實物給與評價額ノ決定	三一
賃金統制令施行規則第三十條第一項ノ白米、精麥及食事ノ價格ノ指定	三二

賃金臨時措置令(拔萃)	三三
賃金臨時措置令施行規則(拔萃)	三三〇
賃金臨時措置令第十五條ノ組合及團體指定	三三八
退職積立金及退職手当法	三三九
退職積立金及退職手当法施行令	三四三
退職積立金及退職手当法施行規則	三五五
退職積立金及退職手当法ニ關スル事務取扱方針	三七一
會社經理統制令(拔萃)	三七九
會社經理統制令施行規則(拔萃)	三九〇
會社經理統制令施行規則第三十一條第一項各號ニ掲グル施設ノ範圍指定	四一五
工場事業場技能者養成令	四三三
工場事業場技能者養成令施行規則	四三七
工場事業場技能者養成令施行規則第四條第一項及第十一條ノ特例ニ關スル件	四四三
工場事業場技能者養成補助規則	四四四
工場事業場技能者養成令第二條ノ事業指定	四四八

工場事業場技能者養成令施行規則第四條第一項ノ比率 四三

健康保險法 四三

健康保險法施行令 四七八

健康保險法第十三條第三號(ウ)ノ規定ニ依ル運送事業ノ指定ニ關スル件 五二一

健康保險法第十四條第一項第二號ノ事業指定ノ件 五二二

健康保險ノ被保險者クラサル臨時使用人ニ關スル件 五二二

勞働者災害扶助法 五二三

勞働者災害扶助法施行令 五三八

勞働者災害扶助法施行規則 五三七

勞働者災害扶助法施行令第三條第二項第六號ノ疾病告示 五五八

勞働者災害扶助責任保險法 五五七

勞働者災害扶助責任保險法施行令 五六〇

勞働者災害扶助責任保險法施行規則 五六七

勞働者災害扶助責任保險ニ於ケル保險料率告示 五七九

社會保險審査會規程 五八一

土木建築工事場安全及衛生規則 五九三

土石採取場安全及衛生規則 六〇九

黃燐燐寸製造禁止法 六六六

重貨物ノ重量標示ニ關スル件 六六八

勞働者年金保險法 六六九

商店法 六八三

商店法施行令 六八七

商店法施行規則 六八八

◆事項索引

工場法

明治四十四年三月二十九日法律第四十六號
大正十二年三月二十九日法律第三十三號改正
昭和四年三月二十七日法律第二十一號改正
昭和十年三月三十日法律第十九號改正

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス

一 常時十人以上ノ職工ヲ使用スルモノ

二 事業ノ性質危險ナルモノ又ハ衛生上有害ノ虞アルモノ

本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ之ヲ除外スルコトヲ得

第二條 削除

第三條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ通算ス

第四條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

工場法

第五條 解除

第六條 削除

第七條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設ケヘシ

前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
夏季ニ於テ一時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設ケル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ超ユル時間以内就業時間ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條 天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限リ第三條、第四條及前條ノ規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得

避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ期間ヲ限リ第三條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ、第四條ノ規定ニ拘ラス十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ前條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得但シ急速ニ腐敗シ又ハ變質スル虞アル原料又ハ材料ノ損失ヲ防ク爲必要ナル場合ニ於テハ繼續四日以上ニ亘ラス且一月ニ付七日ヲ超エサル限リ行政官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度豫メ行政官廳ニ届出テ一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ期間中一年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル限リ就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受ケタル期間内ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第九條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ掃除、注油、検査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調帯、調索ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其ノ他危險ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十條 工業主ハ十六歳未満ノ者ヲシテ毒藥、劇藥其ノ他有害料品又ハ爆發性、發火性若ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃、粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危險又ハ衛生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十一條 前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ病者又ハ産前、産後若ハ生兒哺育中ノ女子ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建設物並設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ工業主ニ命シタル事項ニ付必要ナル事項ヲ職工又ハ徒弟ニ對シ命スルコトヲ得

第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十五條 工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職工カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ第十五條ノ二 工業主前條ノ規定ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ工業主ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

工業主及職工ノ出捐スル共濟組合勅令ノ定ムル所ニ依リ工業主ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セサラシムル給付ヲ爲シタルトキハ工業主ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

第十五條ノ三 第十五條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リ消滅ス

第十五條ノ四 第十五條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第十六條 職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第十七條 職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 工業主ハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ選任スルコトヲ得

工業主本法施行區域内ニ居住セサルトキハ工場管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

工場管理人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス但シ第十五條ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

工業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル

第六
場合ニ於テ工場管理入ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ
第二十條 工業主又ハ前條ニ依リ工業主ニ代ル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工場ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ職工ノ年齢ヲ知ラサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス但シ工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者及取扱者ニ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 本法ニ依リ行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタ

リトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用フルモノニ付テハ第三條、第四條、第七條乃至第九條、第十一條、第十三條、第十四條、第十六條及第十八條乃至第二十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得但シ第三條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ其ノ適用後二年以内同條ノ就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ハ工場管理人ニ關スル規定及罰則ヲ除クノ外官立又ハ公立ノ工場ニ之ヲ適用ス

官立工場ニ關シテハ所轄官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正五年五月勅令第百五十六號ヲ以テ九月一日ヨリ施行)

大正十二年三月二十九日法律第三十三號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年六月五日勅令第百五十二號ヲ以テ大正十五年七月一日ヨリ施行)

本法中十六歳トアルハ本法施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス
職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法施行後三年間ハ第四條ノ規定ヲ適用
セス

前項ノ規定ニ依リ十五歳未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ毎月少クトモ四回ノ休
日ヲ設ケ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

昭和十年三月三十日法律第十九號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年十二月二十一日勅令第四百四十
六號ヲ以テ昭和十二年一月一日ヨリ施行)
工場法第十五條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ノ時効ニシテ其ノ進行カ本法施行前ニ始リタル
モノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ殘期カ二年ヨリ長キトキハ其ノ
日ヨリ起算シテ第十五條ノ三ノ規定ヲ適用ス

工場法施行令

第一章 通 則

第一條 左ニ掲クル事業ノミヲ營ム工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス但シ厚生大臣ノ定ムル原
動機ヲ用フルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 寒天、凍蒟蒻、凍豆腐、湯葉、麵類又ハ麩ノ製造
- 二 行李、簾、籠、和傘骨其ノ他ノ杞柳、藤、竹、竹ノ皮、經木、蔓、莖又ハ藁ノ手工品ノ製造
- 三 經木眞田又ハ麥稈眞田ノ編製
- 四 「アタン」、「バナマ」又ハ之ニ類スルモノヲ以テスル帽子其ノ他ノモノノ編製
- 五 扇子、圍扇、和傘又ハ提燈ノ製造
- 六 紙、絲、棉、竹又ハ布帛ヲ主タル材料トスル玩具又ハ造花ノ製造
- 七 形紙、紙函、元結又ハ水引ノ製造
- 八 手工ニ依ル被服、足袋其ノ他ノ布帛類ノ裁縫
- 九 手工ニ依ル組紐ノ編製

工場法施行令

大正五年八月二日勅令第四百九十三號
大正十一年十一月一日勅令第四百七十一號改正
大正十五年六月二十五日勅令第四百五十三號改正
昭和四年十二月二十六日勅令第四百二十三號改正
昭和十一年十二月二十一日勅令第四百十七號改正
昭和十三年一月十一日勅令第二百三十三號改正

一〇 刺繍、「レース」、「ペテンレース」又ハ「ドローンウオーク」ノ業

第二條 鑛業法ノ適用ヲ受クル工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス

第三條 左ニ掲クル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項第二號ニ該當スルモノトス

- 一 毒劇物又ハ毒劇藥ノ製造
- 二 動物ノ剥製
- 三 水銀ヲ用フル計器ノ製造
- 四 水銀唧筒ヲ用フル魔法燈ノ製造
- 五 鉛ヲ用フル鑪ノ製造
- 六 珓瑯鐵器又ハ珓瑯藥ノ製造
- 七 塗料、顔料、印刷用インキ又ハ繪具ノ製造
- 八 亞硫酸瓦斯、「クロール」瓦斯又ハ水素瓦斯ヲ用フル事業
- 九 硫黃ノ精製
- 一〇 「チアン」加里又ハ硝酸鹽ヲ用フル金屬ノ熱處理
- 二 「フアクチス」ノ製造
- 三 脂肪油ノ精製

- 一三 「ボイル」油ノ製造
- 一四 乾燥油又ハ溶劑ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造
- 一五 溶劑ヲ用フル護謨製品ノ製造
- 一六 溶劑又ハ「ラバーセメント」ヲ用フル護謨製品ノ貼合
- 一七 溶劑ヲ用フル油脂ノ採取
- 一八 溶劑ヲ用フル芳香油ノ製造
- 一九 溶劑ヲ用フル野草莖ノ捺染
- 二〇 溶劑ヲ用フル模造眞珠ノ製造
- 二一 溶劑ヲ用フル「ドライクリーニング」(單ニ拂拭スルモノヲ除ク)
- 二二 溶劑ヲ用フル絆創膏ノ製造
- 二三 「タンニン」酸ノ製造
- 二四 合成染料又ハ其ノ中間物ノ製造
- 二五 「セルロイド」ノ製造、加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工
- 二六 硝化綿ノ製造
- 二七 「コロヂウム」ヲ用フル紙捻製品ノ製造

工場法施行令

- 二六 「エーテル」ノ製造
- 二七 酒精ノ製造又ハ變性
- 二八 「ヴァイスコーズ」ノ製造
- 二九 「テレピン」油ノ蒸溜又ハ精製
- 三〇 鑛油ノ蒸溜、精製又ハ罐詰
- 三一 「アスファルト」ノ精製
- 三二 瀝質物ヲ用フル建築用ノ「フェルト」又ハ紙ノ製造
- 三三 燐寸ノ製造
- 三四 火藥、爆藥又ハ火工品ノ製造又ハ取扱
- 三五 金屬ノ熔融又ハ精煉
- 三六 電氣又ハ瓦斯ヲ用フル金屬ノ熔接又ハ切斷
- 三七 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造
- 三八 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ用フル製氷
- 三九 動力ニ依ル製材
- 四〇 電氣業(發電所、變電所、蓄電所及開閉所)

- 四一 電球ノ製造
- 四二 硝子ノ製造、腐蝕、砂吹又ハ粉碎
- 四三 金屬、骨、角又ハ貝殻ノ乾燥研磨
- 四四 動力ニ依ル金屬箔又ハ金屬粉ノ製造
- 四五 動力ニ依ル鑛石、土砂、貝又ハ骨ノ粉碎
- 四六 電氣用「カーボン」ノ製造
- 四七 石炭瓦斯又ハ骸炭ノ製造
- 四八 「カーバイト」ノ製造
- 四九 石灰ノ製造
- 五〇 「フェルト」又ハ吹付羅紗(粉狀纖維ヲ用フル模造羅紗)ノ製造
- 五一 起毛又ハ反毛ノ作業
- 五二 製綿
- 五三 麻ノ梳解
- 五四 古綿、落綿、古麻、屑紙、屑綿絲、屑毛又ハ襪檻類ノ選別
- 五五 骨炭又ハ血炭ノ製造

工場法施行令

天 毛皮ノ精製、製革又ハ製膠
弄 毛髮又ハ羽毛ノ精製
各 其ノ他厚生大臣ノ命令ヲ以テ指定スル事業

第二章 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助

第四條 職工業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタリトキハ工業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外職工ノ解雇ニ因リテ變更セララルコトナシ

第五條 職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第六條 職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ

職工ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ収入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ賃金百分ノ二十トス

第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ工業主ハ別表ニ掲グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ賃金百八十分(其ノ金額男子ニ在リテハ百五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿チザルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓)ヲ下ルコトヲ得ズ

別表ニ掲グル身體障害ニ以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ

左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ上グ但シ其ノ障害扶助料ノ金額ハ各身體障害ノ該當スル等級ニ依ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 第十三級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 一級

二 第八級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 二級

三 第五級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 三級

別表ニ掲ゲルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲グル身體障害ニ準ジ障害扶助料ヲ支給スベシ

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料

ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スベシ

第七條ノ二 職工重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且工業主其ノ事實ニ付地方長官ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第八條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金四百日分(其ノ金額男子ニ在リテハ三百二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿チザルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓)ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第九條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿チザルトキハ三十四圓)ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第十條 遺族扶助ヲ受クヘキ者ハ職工ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クベキハ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第十一條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

一 職工ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス

二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス

三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス

四 前二號ニ掲クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第十二條 第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ職工ノ遺言又ハ工業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

一 職工ノ家督相續人又ハ戸主

二 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者

三 職工死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

第十三條 第五條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ
障害扶助料ハ職工ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滞ナク之ヲ支給スベシ但シ工業主ガ引續キ雇傭スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間内障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得
遺族扶助料及葬祭料ハ職工ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スベシ

工業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス障害扶助料及遺族扶助料ヲ數回

ニ分割シテ支給スルコトヲ得

第十三條ノ二 職工健康保険法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第五條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保険法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クハキトキハ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

職工ノ死亡ニ關シ健康保険法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ヘ之ヲ爲スコトヲ要セス

健康保険法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第五條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十四條 第五條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保険法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル職工療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ工業主ハ賃金五百四十日分(其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チサルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓)ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

第十四條ノ二 工業主豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ工業主及職工ノ出捐スル共済組合ノ

爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セス
地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十五條 工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

- 一 職工ノ解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保険法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保険法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

- 二 扶助又ハ健康保険法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ職工ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第十六條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

- 一 職工健康保険法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額
- 二 職工健康保険法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ依ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ

日ヲ除キ其ノ前(賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前)三月間(雇入後三月ニ滿チサルトキハ其ノ期間)ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休養シタル期間

二 産前又ハ産後ノ女子厚生大臣ノ定ムル所ニ依リ休養シタル期間

三 試ノ雇傭期間

四 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ賞與又ハ臨時ニ支給セララルル手當ニシテ厚生大臣ノ定ムルモノヲ包含セス

前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ地方長官之ヲ定ム

第十七條 前條第一項第二號ノ規定ニ依リ賃金ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與

ヲ常時支給スルトキハ其ノ價額ハ賃金中ニ之ヲ加算ス但シ休業扶助料ヲ支給スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ引續キ支給スルトキハ其ノ價額ハ休業扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金中ニ之ヲ加算セス

第十八條 地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因、別表ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第十九條 工業主ハ遲滞ナク扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ扶助規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

地方長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十條 官立工場ニ於ケル職工ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

第三章 職工ノ雇入及解雇

第二十一條 工場主ハ遲滞ナク職工名簿ヲ調製シ工場毎ニ之ヲ備付クヘシ

職工名簿ニ記載スヘキ事項ニ關シテハ厚生大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 職工ニ給與スル賃金ハ通貨ヲ以テ毎月一回以上之ヲ支拂フヘシ

第二十三條 工業主ハ職工ノ死亡若ハ解雇ノ場合又ハ厚生大臣ノ定ムル場合ニ於テ權利者ノ請求アリタルトキハ遲滞ナク賃金ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ積立金、信認金其ノ他何等ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ノ貯蓄金ハ遲滞ナク之ヲ返還スヘシ

第二十四條 工業主ハ職工ノ雇入ニ關シ前二條ノ規定ニ違反スル契約又ハ工業主ノ受クヘキ違約金ヲ定メ若ハ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ノ事項ニ付豫メ方法ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 職工ニ貯蓄ヲ爲サシメ又ハ職工ノ利益ノ爲賃金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲スコト

二 職工カ雇入契約ニ違反シ其ノ他職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ解雇セラルル場合ニ於テ職

工ノ貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セサルコト

第二十五條 職工ノ貯蓄金ヲ管理スル場合ニ於テハ工業主ハ豫メ確實ナル方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 削除

第二十七條 未成年者若ハ女子カ工業主ノ都合ニ依リ解雇セラレ又ハ第五條若ハ第六條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル職工、業務上負傷シ若ハ疾病ニ罹リ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費

ノ支給ヲ受クル職工若ハ別表第八級以上ニ該當スル職工解雇セラレ解雇ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スヘシ第十四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ廢止セラレタル者廢止ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合亦同シ

第十八條ノ規定ハ前項ノ旅費ニ關シ之ヲ準用ス

第二十七條ノ二 工業主職工ニ對シ雇傭契約ヲ解除セムトスルトキハ少クトモ十四日前ニ其ノ豫告ヲ爲スカ又ハ賃金十四日分以上ノ手當ヲ支給スルコトヲ要ス但シ天災事變ニ基キ事業ノ繼續不可能ト爲リタルニ因リ又ハ職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ雇傭契約ヲ解除スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル豫告期間ノ計算ニ付テハ左ニ掲クル期間ハ之ヲ算入セス

一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業スル期間但シ其ノ期間引續キ二月ヲ超ユルトキハ其ノ後ノ期間ハ此ノ限ニ在ラス

二 産前又ハ産後ノ女子厚生大臣ノ定ムル所ニ依リ休業スル期間

三 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業スル期間但シ休業中賃金ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ試ノ雇傭期間中ノ職工ニ付之ヲ適用セス但シ雇入後十四日(工業主地方長官ノ

許可ヲ受ケタルトキハ二十一日)ヲ超ユル職工ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條及第十七條ノ規定ハ第一項ノ賃金ニ、第十八條ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條ノ三 職工解雇ノ場合ニ於テ雇傭期間、業務ノ種類及賃金ニ付證明書ヲ請求シタルトキハ工業主ハ遲滞ナク之ヲ交付スヘシ

第二十七條ノ四 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ遲滞ナク就業規則ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ就業規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

就業規則ニ定ムヘキ事項左ノ如シ

- 一 始業終業ノ時刻、休憩時間、休日及職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキハ就業時轉換ニ關スル事項
- 二 賃金支拂ノ方法及時期ニ關スル事項
- 三 職工ニ食費其ノ他ノ負擔ヲ爲サシムルトキハ之ニ關スル事項
- 四 制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項
- 五 解雇ニ關スル事項

地方長官必要ト認ムルトキハ就業規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第四章 徒 弟

第二十八條 工場ニ收容スル徒弟ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 一定ノ職業ニ必要ナル知識技能ヲ習得スルノ目的ヲ以テ業務ニ就クコト
- 二 一定ノ指導者指揮監督ノ下ニ教習ヲ受クルコト
- 三 品性ノ修養ニ關シ常時一定ノ監督ヲ受クルコト
- 四 地方長官ノ認可ヲ受ケタル規程ニ依リ收容セララルコト

第二十九條 工業主前條第四號ノ認可ヲ申請スルニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

- 一 徒弟ノ員數
- 二 徒弟ノ年齢
- 三 指導者ノ資格
- 四 教習ノ事項及期間
- 五 就業ノ方法及一日ニ於ケル就業ノ時間
- 六 休日及休憩ニ關スル事項
- 七 品性修養ニ關スル監督ノ方法

工場法施行令

八 給與ノ方法

九 第三十條ノ規定ニ依リ設クル規程

十 徒弟契約ノ條項

第三十條 徒弟未成年者又ハ女子ナル場合ニ於テハ其ノ就業ニ付十六歳未滿ノ者又ハ女子ニ關スル工場法ノ規定ニ準據シテ危險ヲ避ケ及衛生上ノ害ヲ防クノ方法ヲ定ムヘシ

第三十一條 地方長官ハ工業主ニ於テ第二十八條第四號ノ規程ニ遵ハス又ハ徒弟教習ノ目的ヲ完クスルコト能ハスト認ムルトキハ之ヲ矯正スル爲必要ナル事項ヲ命シ又ハ第二十八條第四號ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第三十二條 第二十八條ノ條件ヲ具備セサル者ニ對シテハ工業主ニ於テ徒弟ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ニ關スル工場法及本令ノ規定ヲ適用ス第二十八條第四號ノ認可ヲ取消サレタルトキ從來ノ徒弟ニ付亦同シ

第五章 罰 則

第三十三條 工場主ヲシテ不正ニ扶助義務、賃金支拂ノ義務、職工ノ貯蓄金返還ノ義務若ハ第二十七條第一項ノ規定ニ依ル義務ノ全部若ハ一部ヲ免レシメタル者又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ

違反シテ雇傭契約ヲ解除セシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ者ノ所爲ニ付工場法

第二十二條ノ規定ニ依リ工業主又ハ之ニ代ル者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 削除

第三十五條 削除

第三十六條 削除

附 則

第三十七條 本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條 第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間本令施行前ノ契約ニ之ヲ適用セス

賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ工場主ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後三年内其ノ慣習ニ依ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 本令施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月内ハ第九條、第二十一條、第二十二條、第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

本令施行ノ際職工ノ貯蓄金ヲ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭シ若ハ

工場法施行令

徒弟トシテ收容スル工業主前項ノ期間内ニ第二十五條、第二十六條又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第二項ノ認可ノ申請ニ之ヲ準用ス

第四十條 現行ノ命令ハ工場法又ハ本令ニ牴觸セサル限り本令施行ノ爲其ノ効力ヲ妨ケラルルコトナシ

第四十一條 本令ニ定ムルモノノ外主務大臣及地方長官ハ職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締其ノ他本令施行ノ爲必要ナル事項ニ關シ命令ヲ發スルコトヲ得

第四十二條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

大正十五年六月五日勅令第五百五十三號附則

第一條 本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 従前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

第三條 本令施行ノ際大正十二年法律第三十三號又ハ本令ノ規定ニ依リ新ニ工場法ノ適用ヲ受ク

ル工場ノ工業主カ本令施行前ニ爲シタル契約ニ付テハ第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間之ヲ適用セス

前項ノ工業主ハ賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後二年以内其ノ慣習ニ依ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第四條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ使用スル場合ニ於テハ工業主ハ遲滞ナク就學ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 附則第三條第一項ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月以内ハ第二十二條、第二十五條及前條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附則第三條第一項ノ工業主職工ノ貯蓄金ヲ引續キ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ引續キ使用スル場合ニ於テ前項ノ期間内ニ第二十五條又ハ前條ノ認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ第一項ノ期間内ノ附則第三條第二項ノ許可ヲ申請シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 本令中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

昭和四年六月二十六日勅令第二百二號附則

本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年十二月二十一日勅令第百四十七號附則

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前支給事由ヲ生ジタル扶助ニ付テハ仍従前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際現ニ休業扶助料ヲ受クル者本令施行後引續キ休業扶助料ヲ受クルトキハ本令施行後

ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治愈シタル負傷又ハ疾病カ本令施

行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

昭和十三年一月十一日勅令第二十三號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

身體障害等級及障害扶助料表

等級	身體障害	障害扶助料
第一級 一	兩眼ヲ失明シタルモノ	賃金六百日分

第二級	一	二	三	四	五	六	七	八	九
一	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ	咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ	精神ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ	胸部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ	半身不隨ト爲リタルモノ	兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	兩下肢膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	兩下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ
二	兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ								
三	兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ								
四	兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ								

但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百八十圓、女子ニ在リテハ三百圓ニ滿チザルトキハ夫々四百八十圓又ハ三百圓トス

賃金五百三十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チザルトキハ夫々四百三十圓トス

第三級		第四級	
一	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	一	兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ
二	咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ	二	咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ
三	精神ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	三	鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ
四	胸部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ	四	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ
五	十指ヲ失ヒタルモノ	五	一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ
		六	十指ノ用ヲ廢シタルモノ
		七	兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ
	賃金四百七十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百三十圓、女子ニ在リテハ二百十圓ニ滿チザルトキハ夫々三百三十圓トス		賃金四百十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百三十圓、女子ニ在リテハ二百十圓ニ滿チザルトキハ夫々三百三十圓トス

第五級		第六級	
一	一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ	一	兩眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ
二	一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ	二	咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ
三	一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	三	鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力耳鼓ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ
四	一上肢ヲ全廢シタルモノ	四	脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ
五	一下肢ヲ用ヲ全廢シタルモノ	五	一上肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ
六	十趾ヲ失ヒタルモノ	六	一下肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ
		七	一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ヲ失ヒタルモノ
	賃金三百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百八十圓、女子ニ在リテハ二百四十圓トス		賃金三百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百四十圓、女子ニ在リテハ二百五十圓トス

五	鎖骨、胸骨、肋骨、肩胛骨又ハ點盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ	
六	一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	
七	一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	
八	長管骨ニ畸形ヲ殘スモノ	
九	一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ	
十	一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ、第二趾ヲ併セ二趾ヲ失ヒタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ	
十一	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
十二	局部ニ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ	
十三	男子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ	
十四	女子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ	
第十三級	一 一眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ	賃金四十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三十圓、女子ニ在リテハ二十圓ニ滿チザルトキ
二	一眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ	
三	兩眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ	

四	一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ	
五	一手ノ拇指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ	
六	一手ノ示指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ	
七	一手ノ示指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ	
八	一下肢ヲ一纏以上短縮シタルモノ	
九	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ	
十	一足ノ第二趾ノ用ヲ廢シタルモノ、第二趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
第十四級	一 一眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ	賃金二十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ十五圓、女子ニ在リテハ十圓ニ滿チザルトキハ十圓又ハ十圓トス
二	三齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ	
三	上肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ	
四	下肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ	
五	一手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ	
六	一手ノ拇指及示指以外ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ	

工場法施行令

七	一手ノ拇指及示指以外ノ指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ
八	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ
九	局部ニ神經症狀ヲ殘スモノ
十	男子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ

備考

一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依ル屈折異狀アルモノニ付テハ矯正視力ニ付測定ス

二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ノ指ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

三 指ノ用ヲ廢シタルモノトハ指ノ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ掌指關節若ハ第一指關節(拇指ニ在リテハ指關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

五 趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ第一趾ハ末節ノ半以上、其ノ他ノ趾ハ末關節以上ヲ失ヒタルモノ又ハ趾關節若ハ第一趾關節(第一趾ニ在リテハ趾關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

工場法施行規則

大正五年八月三日農務省令第十九號
 大正五年六月七日內務省令第十三號
 昭和四年五月十八日內務省令第十六號
 昭和五年六月二十四日內務省令第二十四號
 昭和十一年十二月二十一日內務省令第五十三號
 昭和十四年五月十三日厚生省令第八號
 昭和十六年四月二日厚生省令第十三號
 改正 改正 改正 改正 改正

- 第一條 工場法施行令第一條ノ規定ニ依ル原動機ハ蒸汽機關、蒸汽タービン、瓦斯機關、石油機關、タービン水車、ベルトン水車及電動機トス
- 第二條 工場法第四條及第七條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ同法第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ノ申請又ハ届出ニ付亦同シ
- 第三條 紡績ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出絹織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ大正二十年八月三十一日ニ至ル間ハ十六歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得但シ職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 工場法第八條第二項但書ノ規定ニ依リ工業主行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ就業時間ヲ延長シ、十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ休日ヲ廢シタルトキハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第五條 工場法第九條ニ掲クル業務ノ範圍左ノ如シ

工場法施行規則

- 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ附屬スル勢輪、曲柄、連桿、聯桿器、仰子桿、發電機ノ「コンミニューター」、轉子、銳利ナル刃物、齒輪、調帶車、車軸車軸接手又ハ之ニ準スヘキ危険ナル部分ヲ其ノ運轉中ニ掃除、注油、検査又ハ修繕スル業務
- 二 危険ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ又ハ取外シヲ爲ス業務
- 三 汽罐ノ焚火、給水弁、阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱
- 四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又ハ高壓電線ノ接續
- 五 鋸機ニ木材ヲ送給スル業務
- 六 危険ナル齒輪、調帶車、勢輪、調帶、調索ニシテ完全ナル柵圍其ノ他危険豫防裝置ナキモノ又ハ之ニ準スヘキモノニ接近シテ行フ業務
- 七 完全ナル柵圍其ノ他ノ危険豫防裝置ナキ車軸道、足場其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第六條 工場法第十條ニ掲クル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、黃磷、硫化磷、チアン水素酸、「チアンカリウム」、フルオ

ール水素酸、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性ナトロン、石炭酸其ノ他之ニ準スヘキ毒劇性料品ヲ取扱フ業務

- 二 「カリウム」、「ナトリウム」、過酸化ナトリウム、「エーテル」、石油ベンゼン、「アルコホル」、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務

- 三 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ取扱フ業務

- 四 火藥、爆藥又ハ火工品ヲ取扱フ場所ニ於ケル業務

- 五 金屬、鑛物、土石、骨、角、襪、獸毛、棉、麻、藁等ノ塵埃、粉末ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

- 六 砒素、水銀、黃磷、鉛、チアン水素酸、「フルオール」、「アニリン」、「クロム」若ハク「ロール」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸氣若ハ瓦斯又ハ酸性瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

- 七 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、鑛物、土石類ノ熔融若ハ煨燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第七條 工場法第十條ノ規定ハ前條第六號及第七號ニ掲クル業務ニ關シ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用ス

第八條 工業主ハ左ニ掲クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ掲クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 精神病

二 癩、肺結核、喉頭結核

三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病

四 微毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

五 膿漏性結膜炎、トラホーム(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

工業主ハ助膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 工業主ハ四週日以内ニ出産スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

工業主ハ産後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後四週日ヲ經過シタ

ル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第九條ノ二 生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分以内ヲ限り其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ工業主ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第十條 地方長官ハ前二條ニ掲クル場合ノ外工業主ニ對シ病者又ハ産婦ノ就業ノ制限又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

第十一條 工場法第十四條ノ規定ニ依ル證票ハ様式第一號ニ依ル

第十二條 工業主ハ就業規則ヲ適宜ノ方法ヲ以テ職工ニ周知セシムヘシ

工業主ハ始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ各作業場ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十二條ノ二 工業主ハ職工ニ就業前豫メ其ノ賃金ノ率及計算方法ヲ明示スヘシ

第十三條 工業主ハ扶助ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ職工ニ周知セシムヘシ

第十四條 職工就業中又ハ工場及附屬建設物内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ遅滞ナク醫師ヲシテ診断又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第十四條ノ二 工場法施行令第十六條第三項ノ規定ニ依リ同條第一項第二號ノ賃金總額ニ包含セラレサルモノ左ノ如シ

一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與

二 發明、善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當

第十五條 工場法施行令第十七條ノ給與ノ算出方法ニ關シ契約又ハ慣習ナキ場合ニ於テ年ヲ以テ定メタルトキハ三百六十分シ月ヲ以テ定メタルトキハ三十分シテ一日ノ賃金又ハ給與ヲ定ム

第十六條 職工名簿ノ記載ハ様式第二號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第十七條 職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿ノ記載ニ付雇入又ハ解雇アリタルモノト看做ス

第十九條 職工ノ雇入、解雇及扶助ニ關スル書類ハ工場毎ニ之ヲ備置クヘシ

前項ノ雇入又ハ解雇ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ三年間、扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

第二十條 工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ

一 職工カ一月以上ニ涉リテ歸郷スルトキ

二 職工カ婚禮又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ

三 其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定メタル場合

第二十一條 工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十二條 工業主ハ左ノ場合ニ於テハ遲滯ナク地方長官ニ届出ツヘシ

一 工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任シタルトキ

二 工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ

三 第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存スヘキ書類ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ

第二十三條 削除

第二十四條 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ於ケル職工ノ疾病、負傷又ハ死亡ニ付テハ

工業主ハ様式第三號ノ定ムル所ニ依リ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十五條 職工就業中又ハ工場若ハ附屬建設物内ニ於テ負傷シ、窒息シ又ハ急性中毒ニ罹リ死亡シタルトキ又ハ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スヘキ見込ノトキハ工業主ハ事故發生後遲滯ナク様式第四號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ事故發生當時休業三日以内ノ見込ノ者療養ノ爲休業

三日以上ニ及ヒタルトキ亦同シ

第二十六條 工場又ハ附屬建設物内ニ於テ左ニ掲クル事故發生シタル場合ニ於テハ工業主ハ遅滞ナク様式第五號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ

一 火災又ハ爆發

二 汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂

三 勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂

四 起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索ノ切斷又ハ起重機ノ梁若ハ支柱ノ折損

五 工場、附屬建設物、煙突又ハ高架槽ノ倒壊

六 其ノ他一時ニ五人以上ノ死傷者ヲ生シタル事故

第二十六條ノ二 工業主扶助ヲ爲シタルトキ又ハ工場法施行令第十三條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタルトキハ様式第六號ニ依リ之ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第二十七條 工場法第一條ニ該當セザル工場ニシテ原動力ヲ用ヒ織物又ハ撚絲ノ事業ヲ營ムモノ

ニハ工場法第三條、第四條、第七條、第八條、第十四條及第十八條乃至第二十三條竝本則第二條、第四條、第十一條、第十二條第二項、第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ工場ノ工業主ハ十六歳以上ノ職工ニ付其ノ住所、氏名及生年月日ヲ記載シタル名簿ヲ調

製シ工場ニ備付クルコトヲ要ス本名簿ハ工業労働者最低年齢法第三條ニ依ル名簿ト合併スルコトヲ妨グス

附 則

第二十八條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十九條 本則施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本則施行ノ日ヨリ四月内ハ第十二條、第十三條及第二十四條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十條 工場法施行ノ際十歳以上十二歳未滿ノ者ヲ引續キ就業セシムル工業主ハ大正五年九月三十日迄ニ其ノ氏名、男女別、生年月日及雇入年月ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ怠リタル者又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

大正十五年六月七日内務省令第十三號附則

本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令(様式第二號)ノ改正規定ヲ除ク)中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ十五歳トス

昭和四年五月十八日内務省令第十六號附則

本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條 第一項ノ工場ノ工業主ハ本令施行後二年間ハ十六歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間延長スルコトヲ得

昭和五年六月二十四日内務省令第二十四號附則

本令ハ昭和五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年十二月二十一日内務省令第五十三號附則

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年五月十三日厚生省令第八號附則

本令ハ昭和十四年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年四月二日厚生省令第十三號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(様式第一號)

第	號	大正	年	月	日	交付
社會局又ハ 府縣印 官 職 氏 名						
工場法第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建築物ニ臨檢シ又 ハ就業ノ禁止限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レ ル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ 其ノ證明ヲ携帶スヘシ 工場法第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、 妨ケ若ハ忌避シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ 罰金ニ處ス						

竪八センチメートル横十センチメ
ートル中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト
爲シ表面ニ「工場臨檢票」ト記ス

雜	解 雇	入 雇	履 歷	住 所	男 女		籍 本
					氏 名	生 年 月 日	

職工名簿記載心得

- 一 職工名簿ハ職工毎ニ少クトモ用紙一枚ヲ備ヘ其ノ體裁ハカード式其ノ他ノ方式ニ依リ工業主ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ
- 二 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ、各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ケス
各欄ノ位置ハ本様式ニ掲クル順序ニ依ルヘシ但シ本則施行ノ際使用スル職工名簿ニ付テハ新名簿調製ニ至ル迄ノ間從前ノ順序ニ依ルコトヲ得
- 三 職工名簿ハ職工ノ業務別、男女別又ハ女工及十六歳未滿ノ男工ト其ノ他ノ職工トヲ區別スル等便宜ニ從ヒ各別ニ之ヲ調製スルコトヲ妨ケス
- 四 履歷欄ニハ職工ノ學業及業務上ノ履歷ノ概略ヲ記載スヘシ職工十六歳未滿ノ者ナル場合ニ於テハ國民學校初等科ノ課程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル學校名及修了年月ヲ、國民學校初等科ノ課程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

ス

青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ニシテ十六歳未滿ノモノニ在リテハ其ノ就學スル
青年學校名、入學シタル學年及入學ノ年月ヲ記載スベシ

五 雇入欄ニハ雇入又ハ雇入更新ノ年月日、雇入期間ノ定アルモノハ其ノ期間其ノ他雇入ニ關
シ重要ナル事項ヲ記載スヘシ

六 解雇欄ニハ解雇ノ年月日、事由其ノ他解雇ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スヘシ

七 職工死亡シタルトキハ本欄ニ其年月日、死亡ノ原因、死亡ニ至ル迄ノ經過ヲ記載スヘシ
雜欄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

イ 女子及十六歳未滿ノ男工カ同一日ニ於テ他工場ニモ就業スル場合ニ於テハ他工場ニ於ケ
ル就業時間(工場法第三條第三項)

ロ 職工カ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ヲ豫告シタルトキハ其ノ氏名、住所、職工トノ關係及豫
告ノ年月日(工場法施行令第十二條但書)

尚本欄ニハ工業主ニ於テ必要ト認ムル雜件ヲ記載スルモノトス

八 各票作成ノ當務者ハ雜欄其ノ他便宜ノ場所ニ作成ノ年月日ヲ記載シ署名又ハ捺印スヘシ

(様式第三號)

大正 年 月 分 職工負傷疾病月報 工場名

職工總數	内
	男工
	女工

氏名	生年月	業務別 男女別	休業 日數	病名又 ノハ負傷 種類	發病又 ノハ負傷 日付	結			未治癒ノ爲 翌月へ繰越
						治癒 日數	死亡 日數	解雇 日數	
									○
									○
									○
									○
									○
									○
									○

職工負傷疾病月報記載心得

- 一 本月報用紙ノ一頁ハ半紙半折大トス
- 二 本月報ニハ業務上ト否トヲ問ハス負傷又ハ疾病ノ爲引續キ三日又ハ夫レ以上休業シタル者ニ限り記載スヘシ但シ死亡シタル者ニ付テハ休業三日ニ滿タサルトキト雖之ヲ記載スヘシ同一職工ニ付同一月内ニ二回以上月報ニ記載スヘキ事由ヲ生シタルトキハ各別ニ記載スヘシ
- 三 負傷及疾病ハ各別ニ取纏メテ記載スヘシ負傷ト疾病ト用紙ヲ別ニスルモ妨ケナシ
- 四 職工總數欄ニハ其ノ月ノ末日ニ使用スル職工ノ總數ヲ記載スヘシ
- 五 業務別男女別欄ニハ例ヘハ紡績工場ニ於テハ混棉部男工、精紡部女工、製紙工場ニ於テハ紙料部男工、織布工場ニ於テハ整形部女工等ニ準シ記載スヘシ
- 六 休業日欄ニハ其ノ月ニ於ケル休業日數ヲ記載スヘシ
月末ノ休業日數カ三日ニ滿タサルモ翌月ノ分ト合算シテ三日又ハ夫レ以上トナリタル場合ニ於テハ之ヲ通算シテ翌月ノ月報ニ記載スヘシ
未治癒ノ爲翌月ヘ繰越欄ニ記載シタルモノニシテ翌月ニ入り治癒シタルトキハ翌月ニ於ケル休業三日ニ滿タスト雖仍之ヲ翌月ノ月報ニ記載スヘシ

- 七 病名又ハ負傷ノ種類、發病又ハ負傷ノ日附判明セサルトキハ「不明」ト記載スヘシ
- 八 結末欄ニ於テハ其ノ月内ニ治癒シタル者ハ治癒ノ日附、其ノ月内ニ死亡シ又ハ治癒ニ至ラズシテ解雇シタル者ハ死亡又ハ解雇ノ日附ヲ記載シ其ノ月内ニ治癒セサル者ニ付テハ未治癒ノ爲翌月ヘ繰越欄ニ〇印ヲ附スヘシ

(様式第四號)

告報傷死工職

工場名	事業ノ種類	職工數		工場所在地	事故發生日時	年月日午後前時分	工業主又ハ工場管理人	當日被害者ノ數	死者ノ姓名	死者ノ性別	死者ノ年	死者ノ月	死者ノ日	死者ノ職務又ハ職名	死者ノ年	死者ノ月	死者ノ賃金	被害ノ部位及症狀	死者ノ死亡日時又ハ休業見込日數	災害ノ原因及發生狀況	危険豫防裝置ノ狀況	
		男	女																			

() 年 月 日届出

職工死傷報告記載心得

- 一 本報告用紙ノ一頁ハ美濃紙半折大トス
- 二 本報告ハ職工死亡シ又ハ療養ノ爲休業二週日以上ヲ要スヘキ見込ノ場合ニ於テハ二通其ノ他ノ場合ニ於テハ一通ヲ差出スヘシ
- 三 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後五年間之ヲ保存スヘシ
- 四 本報告ハ死傷者一名毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ同一ノ事故ニ依リ數人ノ死傷者ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ中一枚ノ報告ニ詳細記入シテ他ノ報告ニハ其ノ重複スル部分ヲ省略スルコトヲ得
- 五 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設ケルコトヲ妨ケス
- 六 工業主又ハ工場管理人欄ニハ届出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ
- 七 事業ノ種類別ニハ例ヘハ毛織物業、綿絲紡績業、機械製造業、自轉車製造業、造船業、洋傘骨製造業、セメント製造業、製鹽業、菓子製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ
- 八 職工數欄ニハ最近ノ調査ニ依ル員數ヲ記入スヘシ

九 事故發生場所欄ニハ事故ノ發生シタル場所ニ於テ行ハルル作業ノ性質ヲ明示シ得ル名稱

(例ヘハ機關室、鍛工場、木工場、乾燥室、原料粉碎室、苛性曹達煮詰釜場、叩解作業室、機關室ト貯炭所トノ間ノ軌道、入渠中ノ修理船何丸ノ足場等)ヲ記入スヘシ

十 當日被害者ノ作業開始時刻欄ニハ被害者ノ當日作業ヲ開始シタル時刻ヲ記入スヘシ前日ヨリ引續キ夜業ヲ爲セル場合ニ於テハ前日ノ作業開始時刻ヲ記入スヘシ

十一 死傷者欄中

(一) 業務又ハ職名稱ニハ被害者ノ擔當業務又ハ職名(例ヘハ旋盤工、修繕工、捺染工、雜役夫等)ヲ記入スヘシ

(二) 雇入年月欄ニハ當該工場ニ於テ被害者ヲ雇入レタル年月ヲ記入スヘシ

(三) 賃金欄ニハ被害者ノ日給(稼高ノ場合其ノ他收入一定セサル場合ニ於テハ最近ニ於ケル通常一日ノ賃金額)ヲ記入スヘシ

(四) 被害ノ部位及症狀欄ニハ例ヘハ頭部打撲、右上膊骨折、左第三指及第四指挫傷、電撃、腹部火傷、瓦斯中毒、窒息等ヲ記載スヘシ

(五) 死亡日時又ハ休業見込日數欄ニハ死亡シタルモノニ付テハ死亡ノ日時、生命危篤ノ者ニ付テハ其ノ旨、其ノ他ノ者ニ付テハ治療ノ爲休業シタル日數ト其ノ後ノ休業見込日

數トノ合算日數ヲ記入スヘシ

十二 災害ノ原因及發生狀況欄ニハ災害發生前ノ被害者ノ動作、操作、災害發生位置ノ高サ又

ハ深サ、災害カ機械又ハ設備ニヨリテ發生シタル場合ニ於テハ其ノ大サ、能力、高サ、

壓力、電壓又ハ溫度其ノ他災害ノ原因及狀況ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル事項ヲ擧ケテ

其ノ顛末ヲ記載スヘシ但シ動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害ヲ發生

シタルトキ左方ノ記入欄ニ記入スル場合ニ於テハ其ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ付テハ簡

略ニ記載スヘシ第二十六條ニ規定セル事故ニ依リ死亡者又ハ治療ノ爲休業三日以上ヲ要

スヘキ者ヲ生シタルトキハ其ノ原因ヲ簡略ニ記載シ様式第五號ノ工場災害事故報告トノ

關係ヲ明ニスヘシ

十三 動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害發生シタルトキ記入スヘキ事項欄中

(一) 名稱欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ名稱(例ヘハ蒸汽機關、旋盤、圓鋸機、車軸、調帶等)ヲ記入スヘシ

(二) 大サ又ハ能力欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ大サ又ハ能力(例ヘハ何馬力、長サ何米、直徑何種、幅何種、厚サ何種等)ヲ記入スヘシ

工場災害事故報告書

(様式第五號)

工場名						工場所在地			工場主又は工場管理人		
事業の種類						職工の人数			事故の発生日時		
災害の原因及び発生状況						計			年 月 日 午前 時 分		
被害者						性			計		
死者						男			計		
死者						女			計		
被害建物ノ種類						坪			損害見積金額		
機械、設備等ノ損害						原			計		
原料、材料、製品等ノ損害						原			計		
災害ニ因ル作業休止ノ損害						原			計		
災害原因ニ關シテハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ						況 狀 ノ 害 被					
況 狀						況 狀					
災 害						災 害					
災 害						災 害					

工場法施行規則

六三

- (三) 災害ヲ生シタル部分欄ニハ例ヘハ曲柄、齒輪、鋸齒、車軸接手、調帯、調帯車等ヲ記入スヘシ
- (四) 其ノ部分ノ速度、大サ等欄ニハ廻轉數何程、輪周速度何米、長サ何米、幅何種、厚サ何種等ヲ記入スヘシ
- 十四 危害豫防装置ノ狀況欄ニハ災害ノ發生セル機械、設備其ノ他ノ場所ニ危害豫防装置(例ヘハ高サ何米ノ木製柵圍、何種ノ眞鍮丸棒ヲ使用セル高サ何米ノ手欄、金網製掩蓋、機械運轉中ハ開カサル様爲シタル危険部ヲ蔽ヘル戸等)アルトキハ之ヲ記入スヘシ
- 十五 災害原因及發生狀況又ハ危害豫防装置ノ狀況其ノ他ニ關シ本欄中ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ
- 十六 災害原因及發生狀況又ハ危害豫防装置ノ狀況ニ關シテハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ

六二

工場災害事故報告記載心得

- 一 本報告用紙ノ一頁ハ美濃紙半折大トス
- 二 本報告ハ二通差出スヘシ
- 三 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後五年間之ヲ保存スヘシ
- 四 本報告ハ災害事故一件毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ
- 五 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルヲ妨ケス
- 六 工業主又ハ工場管理人欄ニハ届出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ
- 七 事業ノ種類欄ニハ例ヘハ賣藥製造業、セルロイド加工業、製綿業、機械類修理業、煙火製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ
- 八 職工數欄ニハ最近ノ調査ニ依ル員數ヲ記入スヘシ
- 九 事故發生場所欄ニハ事故ノ發生シタル場所ニ於テ行ハルル作業ノ性質ヲ明示シ得ル名稱
(例ヘハ汽罐室、瓦斯發生爐前、熔接作業場、硝化作業所、原料煮熱罐室、鑄込場、脫水作業場等)ヲ記入シ倉庫ノ場合ニ於テハ其ノ倉庫ニ格納セララルル物品ヲ明示シ得ル名稱
(例ヘハ棉花倉庫、石油貯藏庫等)ヲ記入スヘシ

十 災害ノ原因及發生狀況欄ニハ左ノ各號ニ從ヒ記載スヘシ

- (一) 火災ノ場合ニ於テハ發火ノ原因、第一次ニ火氣ヲ傳播セシメタル料品ノ名稱、數量、狀態等及之ニ關係セル機械又ハ設備、作業、操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ尙消火唧筒若ハ消火栓ヲ使用シタル以前ニ消火ノ爲取リタル措置アラハ其ノ狀況ヲ記載スヘシ
- 爆發ノ場合ニ於テハ爆發シタル料品ノ名稱、數量、爆發ノ原因、爆發ニ關係アル機械、設備、作業、操作其ノ他爆發ノ原因及狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ
- (二) 汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂ノ場合ニ於テハ其ノ種類、型式、使用ノ目的、製造年月、大サ、常用壓力、附屬壓力計ノ容量、安全弁ノ種類及口徑、破裂當時ノ使用壓力、水壓試驗ヲ行ヒタルモノニ付テハ其ノ年月及試驗壓力、災害事故ニ關係アル作業、操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ
- (三) 勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂ノ場合ニ於テハ勢輪又ハ高速廻轉機ノ種類、其ノ使用ノ目的構成材料、大サ(直徑、厚サ等)常用廻轉數、災害發生當時ノ廻轉數其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(四) 起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索切斷シタル場合ニ於テハ其ノ常用荷重及事故發生時ノ荷重、事故ヲ惹起シタル部分(鎖、索、梁又ハ支柱)ノ構造、材料、大サ及製造年月其ノ他原因及狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(五) 工場、附屬建設物、煙突、高架槽ノ倒壊ノ場合ニ於テハ倒壊ノ直接原因(風、地震等)被害物件ノ構造、材料、構造ノ缺陷、構造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(六) 五人以上ノ負傷者(職工以外ヲ含ム)ヲ生シタル場合ニ於テハ前各號ニ災害事故ノ原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

十一 前項ノ記載ニハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ

十二 死傷者數欄ニハ職工タルト否トニ拘ラス該當欄ニ記入スヘシ

十三 災害ニ因ル損害欄ニハ被害建物ノ損害ハ其ノ種類別ニ(例ヘハ木造二階建、石造平屋建、木骨亜鉛引鐵板引平屋等)、坪數(延坪)及其ノ損害見積金額ヲ記入シ、機械、設備等ノ損害、原料、材料、製品等ノ損害又ハ災害ニ依ル作業休止ノ損害ハ各總見積金額ヲ記入スヘシ

十四 豫防施設狀況欄ニハ火災ニ對スル消防防火ノ施設(例ヘハ自動撒水装置、消火唧筒、消

火栓、消火器具等ノ種類及配置狀況又ハ防火壁ノ構造、防火戸等)ニ付記載シ特ニ發火ノ場所ニ於ケル施設狀況ヲ明ニスヘシ爆發ニ在リテハ爆發ヲ起シタル場所特ニ牆壁、圍壁其ノ他ノ豫防施設アラハ之ヲ記載スヘシ他ノ場合ニ於テモ其ノ豫防アラハ之ヲ記載スヘシ

十五 避難施設狀況欄ニハ出入口、昇降口、非常口、階段等ノ配置、構造、扉ノ開閉等ノ不良ナリシ爲避難ニ支障ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ理由ヲ記載シ特ニ避難設備トシテ設ケラレタルモノアラハ種類及配置ニ付記載スヘシ

十六 災害ノ原因及發生狀況、豫防及避難施設ノ狀況其ノ他ニ關シ本欄ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ

職工扶助報告

事業ノ種類	工場名及工場所在地	工場主又ハ工場管理人	扶助了別		氏名	業務ノ別	負傷ノ年月日	職工報告年月日	療養費	休業扶助料日數金額	障害扶助料又ハ打切扶助料種類又ハ等級金額	葬祭料	備考
			了別	了別									
健康保險ノ被保險者ニ對スルモノ													
健康保險ノ被保險者ニ對スルモノ													
非ザル者ニ對スルモノ													

(年 月 日届出)

職工扶助報告記載心得

- 一 本報告ノ用紙一頁ハ美濃紙半折大トス
- 二 本報告ハ毎月二十日迄ニ前月分ヲ差出スベシ
- 三 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後五年間之ヲ保存スベシ
- 四 本報告ニハ前月中ニ支給シタルモノハ之ヲ各個ニ記載シ、前々月ヨリ繼續支給セルモノハ其ノ際集計ヲ記載スベシ記載順序ハ扶助終ノモノヲ先ニスベシ
- 五 事業ノ種類欄ニハ例ヘバ毛織物業、綿絲紡績業、機械製造業、自轉車製造業、造船業、洋傘骨製造業、セメント製造業、製塩業、菓子製造業等ヲ記入スベシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スベシ
- 六 工業主又ハ工場管理人欄ニハ届出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ
- 七 業務又ハ職名欄ニハ扶助ヲ受クル職工ノ擔當業務又ハ職工(例ヘバ旋盤工、修繕工、捺染工、雜役夫等)ヲ記入スベシ
- 八 工場法施行令第十三條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支拂ヲ延期シタル場合ニ於テハ障害ヲ殘シタル時及現實ニ支給シタル時何レモ本表ニ記載シ前者ノ場合ニハ延期シタル旨ヲ後者ノ場合ニハ障害扶助料支給延期報告届出ノ年月日ヲ備考欄ニ記載スベシ

工場法施行規則

九 健康保険ノ被保険者ニ對スルモノノ療養費及休業扶助料額ニハ保險給付期間ヲ超ヘテ支給シタルモノノミヲ記載シ傷病手當金ヲ受クル者ニ對シ補給シタル休業扶助料ハ備考欄ニ保險給付補給トシテ記載スベシ
 (様式第六號乙)

障害扶助料支給延期報告記載心得

事業ノ種類	男 女 別 氏 名	業務 又ハ 職名ノ 別	傷事 病發 年月日	故職 生助 年月日	治療 扶助 年月日	支給 延期 期間	障害 部位	障害 等級	備考	工場名及工場所在地		工業主又ハ工場管理人	
										備考	備考	備考	備考

一 本報告ノ用紙一頁ハ美濃紙半折大トス

- 二 本報告ハ工場法施行令第十三條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタル後遅滞ナク之ヲ差出スベシ
- 三 本報告ニハ扶助ヲ受クベキ職工ノ障害扶助料支給延期承諾書ノ寫ヲ添付スベシ
- 四 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ障害扶助料支給ノ後五年間之ヲ保存スベシ
- 五 本報告ハ職工一名毎ニ用紙ヲ別ニスベシ
- 六 事業ノ種類別ニハ例ヘバ毛織物業、綿絲紡績業、機械製造業、自轉車製造業、造船業、洋傘骨製造業、セメント製造業、製塩業、菓子製造業等ヲ記入スベシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スベシ
- 七 工場主又ハ工場管理人欄ニハ届出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スベシ
- 八 業務又ハ職名欄ニハ扶助ヲ受クベキ職工ノ擔當業務又ハ職名(例ヘバ旋盤工、修繕工、捺染工、雜役夫等)ヲ記入スベシ
- 九 支給延期ノ期間欄ニハ例ヘバ雇傭期間中又ハ昭和 年 月 日迄ト記入スベシ

國家總動員法

(昭和十三年四月一日法律第五十五號
昭和十六年三月三日法律第十九號改正)

七二

第一條 本法ニ於テ國家總動員トハ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル様人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資
- 二 國家總動員上必要ナル被服、食糧、飲料及飼料
- 三 國家總動員上必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衛生用物資及家畜衛生用物資
- 四 國家總動員上必要ナル船舶、航空機、車輛、馬其ノ他ノ輸送用物資
- 五 國家總動員上必要ナル通信用物資
- 六 國家總動員上必要ナル土木建築用物資及照明用物資
- 七 國家總動員上必要ナル燃料及電力
- 八 前各號ニ掲グルモノノ生産、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、裝置其

ノ他ノ物資

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資

第三條 本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 總動員物資ノ生産、修理、配給、輸出、輸入又ハ保管ニ關スル業務
- 二 國家總動員上必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務
- 三 國家總動員上必要ナル金融ニ關スル業務
- 四 國家總動員上必要ナル衛生、家畜衛生又ハ救護ニ關スル業務
- 五 國家總動員上必要ナル教育訓練ニ關スル業務
- 六 國家總動員上必要ナル試験研究ニ關スル業務
- 七 國家總動員上必要ナル情報又ハ啓發宣傳ニ關スル業務
- 八 國家總動員上必要ナル警備ニ關スル業務
- 九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務

第四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨ゲズ

第五條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法

人其ノ他ノ團體ヲシテ國、地方公共團體又ハ政府ノ指定スル者ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇、就職、從業若ハ退職又ハ賃金、給料其ノ他ノ從業條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働爭議ノ豫防若ハ解決ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ作業所ノ閉鎖、作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ勞働爭議ニ關スル行爲ノ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第十一條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用、債務ノ引受若ハ債務ノ保證ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十三條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬スル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一



部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ前項ニ掲グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ從業者ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實施スル特許發明若ハ登録實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ必要ナル土地若ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ之ヲ使用若ハ收用セシムルコトヲ得

第十六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命スルコトヲ得

第十六條ノ二 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備又ハ權利ノ讓渡其ノ他ノ處分、出資、使用又ハ移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第十六條ノ三 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ開始、委託、共同經營、讓渡、廢止若ハ休止又ハ法人ノ目的變更、合併若ハ解散ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇

傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ検査スルコトヲ得

第二十二條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ管理者又ハ養成セラルベキ者ノ雇傭主ニ對シ國家總動員上必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者

二 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者

三 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ、妨ダ又ハ忌避シタル者

四 第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用若ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ダ又ハ忌避シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

三 第十六條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十六條ノ三ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

五 第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ統制協定若ハ統制規程ヲ設定、變更若ハ廢止シ又ハ第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

六 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者

七 第二十六條ノ規定ニ違反シ生産、修理又ハ設備ヲ爲サザル者

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應セス又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事セザル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ爲サザル者

三 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試験研究ヲ爲サザル者

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ團體又ハ會社ノ設立ヲ爲サザル者
- 二 第十八條第六項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 三 第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者
- 四 第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者
- 第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨ダ若ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
- 第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十一條ノ二乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十三年勅令第三百十五號ヲ以テ)
 (昭和十三年五月五日ヨリ施行)

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス
 本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス
 軍需工業動員法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

昭和十六年法律第十九號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十六年勅令第二百五號ヲ以テ)
 (昭和十六年三月二十日ヨリ施行)

工場就業時間制限令 (昭和十四年三月三十一日勅令第百二十七號)

- 第一條 國家總動員法第六條ノ規定ニ基ク工場ニ於ケル就業時間ノ制限ハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 本令ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニシテ厚生大臣ノ指定スル事業ヲ營ムモノニ之ヲ適用ス
- 第三條 工業主ハ十六歳以上ノ男子職工ヲシテ一日ニ付十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ズ
- 第四條 工業主ハ十六歳以上ノ男子職工ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ一日ノ就業時間ガ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クベシ
- 第五條 十六歳以上ノ男子職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル爲又ハ業務ノ性質上特ニ必要アル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ工業主ハ豫メ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ニ届出デ第三條ノ就業時間ヲ延長スルコトヲ得
- 第六條 已ムヲ得ザル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第三條ノ規定ニ拘ラズ就業時間ヲ延長シ又ハ第四條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得但シ命令ヲ

以テ定ムル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度豫メ地方長官ニ届出デ一月ニ付七日ヲ超エザル期間就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツベシ

第七條 厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ就業時間ノ制限ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ工業主ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第八條 本令ハ國ノ事業ニ之ヲ適用セズ

第九條 本令中工場法ノ適用ヲ受クル工場トアルハ朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ在リテハ常時十人以上ノ職工ヲ使用スル工場、樺太ニ在リテハ工場取締規則ノ適用ヲ受クル工場トシ十六歳以上ノ男子職工トアルハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ職工トス

本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺

八二
滿ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官ト
ス

附 則

本令ハ昭和十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四
年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

工場就業時間制限令施行規則

(昭和十四年四月十九日厚生省令第七號)

第一條 工業主左ニ掲グル場合ニ於テハ工場就業時間制限令(以下令ト稱ス)第五條ノ規定ニ依
リ必要ナル限度ニ於テ就業時間ノ延長ヲ爲スコトヲ得

- 一 十六歳以上ノ男子職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テ交替班ノ就業時ヲ
轉換スル爲又ハ交替時ニ作業ノ引繼ヲ爲サシムル爲特ニ必要アルトキ
- 二 爐、汽罐、原動機又ハ起重機等ノ取扱ニ従事セシムル爲特ニ必要アルトキ
- 三 機械ノ保全、設備ノ修理、工具ノ出納、掃除等補助的業務ニ専ラ従事セシムル爲特ニ必要
アルトキ

四 其ノ他前各號ニ準ズル場合

第二條 令第五條ノ届出書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 工場ノ名稱、所在地及事業ノ種類
- 二 工業主ノ氏名及住所(法人タル工業主ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表
者ノ氏名)
- 三 常時使用スル男女別職工數

工場就業時間制限令施行規則

四 所定ノ就業時間、休憩時間、休日及十六歳以上ノ男子職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキハ就業時間轉換ニ關スル事項

五 延長セントスル就業時間

六 就業時間ノ延長ヲ必要トスル作業ノ種類及其ノ作業ニ従事スル十六歳以上ノ男子職工數

七 就業時間ノ延長ヲ必要トスル理由

第三條 令第六條第一項ノ許可ノ申請書ニハ前條第一號乃至第四號ノ事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 就業時間ヲ延長シ又ハ休日ヲ廢セントスル期間

二 延長セントスル就業時間又ハ廢セントスル休日

三 就業時間ノ延長ヲ必要トシ又ハ休日ノ廢止ヲ必要トスル作業ノ種類及其ノ作業ニ従事スル十六歳以上ノ男子職工數

四 就業時間ノ延長ヲ必要トシ又ハ休日ノ廢止ヲ必要トスル事由

第四條 令第六條第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受クルコトヲ要セザル場合左ノ如シ

一 災害事故等ニ因リ緊急ノ處置ヲ必要トスルトキ

二 工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ管理スル工場ニ於テ同令ニ基キ作業時間

ノ延長ヲ命ゼラレタルトキ

第五條 令第六條第二項ノ届出書ニハ第二條各號ノ事項ノ外就業時間ヲ延長セントスル期間ヲ記載スベシ

第六條 令第六條第三項ノ届出書ニハ第二條第一號乃至第四號ノ事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 就業時間ヲ延長シ又ハ休日ヲ廢シタル期間

二 延長ヲ爲シタル就業時間又ハ廢シタル休日

三 就業時間ノ延長ヲ爲シ又ハ休日ヲ廢シタル作業ノ種類及其ノ作業ニ従事シタル十六歳以上ノ男子職工數

四 就業時間ノ延長ヲ必要トシ又ハ休日ノ廢止ヲ必要トシタル事由

第七條 令第七條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

附 則

本令ハ昭和十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式省略)

工場就業時間制限令施行規則

工場就業時間制限令第二條ノ事業指定

(昭和十四年四月十九日厚生省告示第七十四號)

- 一 機械製造業
- 二 船舶車輛製造業
- 三 器具製造業
- 四 金屬品製造業
- 五 金屬精鍊業

青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ

就業時間ニ關スル件 (昭和十四年四月二十六日法律第八十七號)

工場法、鑛業法ニ基キテ發スル命令又ハ商店法中就業時間數ノ制限ニ關スル規定ヲ青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ニシテ十六歳未滿ノモノニ付適用スル場合ニ於テハ其ノ者ガ履修スベキ義務課程タル一日ノ教授及訓練時間ハ之ヲ就業時間ト看做ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十四年五月十二日勅令第三百十三號)
ヲ以テ同年五月二十日ヨリ施行

工場危害豫防及衛生規則

(昭和四年六月二十日內務省令第二十四號
昭和十三年四月十六日厚生省令第四號改正
昭和十五年十月七日厚生省令第三十七號改正)

- 第一條 本令ハ工場法第一條ノ工場ニ之ヲ適用ス
- 第二條 原動機及動力傳導裝置ノ危害ヲ生ズル虞アル部分ニハ適當ナル柵圍又ハ被覆ヲ設クベシ
- 第三條 動力傳導裝置ノ調帶ノ繼目ニハ突出セル金具ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ露出面カ弧面ヲ爲シ危險ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ハ適當ナル柵圍若ハ被覆ニ依リ又ハ据附位置ノ關係上接觸ノ虞ナク且運轉中手ニテ取扱フコトナキ調帶又ハ動力弱小若ハ速度緩ニシテ危險ナキ調帶ニ付テハ之ヲ適用セズ
- 第四條 動力傳導裝置ノ車軸接手、車軸留輪、聯軸器、調車其ノ他廻轉部分ニ附屬セル「セツト スクリュー」、「ボルト」、「ナット」及楔類ノ頭部ハ突出セザルモノヲ用フルコトヲ奨ス但シ露出面カ弧面ヲ爲シ危險ナキトキ、適當ナル被覆ノ設ケアルトキ又ハ作業（掃除、注油、検査、修繕等ヲ含ム）若ハ通行ニ際シ運轉中接觸ノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第五條 遊車ヲ使用スルモノニ在リテハ選帶裝置ヲ設クヘシ但シ作業上已ムヲ得ザルモノ又ハ危險ノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラズ

- 前項ノ選帶裝置ニハ調帶ガ不意ニ固定車ニ移ルコトヲ防止スル裝置ヲ爲スベシ
- 第六條 調車ト隣接車輪、軸承、車軸接手等トノ間隔狭小ニシテ其ノ間ニ調帶ガ脱落シ危害ヲ生ズル虞アル場合又ハ車軸ノ運轉中調帶ヲ調車ヨリ時々取外シ置ク場合ニハ適當ナル調帶受ヲ設クベシ
- 第七條 注油ノ爲接近スルコト危險ナル動力傳導裝置ニハ安全ナル給油裝置ヲ設クベシ
- 第八條 作業場所ニハ事故發生ノ場合ニ於テ速ニ原動機又ハ動力傳導裝置ノ運轉ヲ停止シ得ベキ裝置ヲ設クベシ但シ作業場所ヨリ原動機据附場所ニ直ニ到達シ得ル場合又ハ係員ヲ常置セル原動室ニ通ズル應急停止ノ信號ヲ定メアル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第九條 原動機及動力傳導裝置ノ運轉ヲ開始スル際ニハ之ヲ關係職工（徒弟ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ周知セシムル爲豫メ一定ノ合圖ヲ爲スベシ
原動機、動力傳導裝置又ハ機械ノ運轉ヲ停止シテ掃除、注油、検査、修繕等ヲ爲シツツアル際ニ他人ガ之ヲ運轉シ危害ヲ生ズル虞アルトキハ之ヲ防止スル爲適當ナル裝置又ハ處置ヲ爲スベシ
- 第十條 動力ニ依リ運轉スル機械ノ危害ヲ生ズル虞アル部分ニハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外柵圍、被覆其ノ他適當ナル危害豫防裝置ヲ設クベシ

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル機械ノ部分ハ廻轉ガ停止スルニ非ザレハ開クコト能ハザル装置ト爲スベシ

- 一 綿絲紡績機械ニ於ケル荒打綿機ノ「フアン ドーア」、打綿機ノ「ピーター カバー」及「ダート ドーア」、梳綿機ノ「シリンドアー」ノ「フロント プレート」(但シ真空掃除器ヲ使用スルモノヲ除ク)、練篠機若ハ粗紡機ノ「ヘッド ストック」ノ「ギーヤリング カバー」
- 二 絹絲紡績機械ニ於ケル切綿機ノ「シリンドアー カバー」
- 三 其ノ他前二號ニ準ズベキモノ

第十二條 動力ニ依リ運轉スル機械ニハ各機械毎ニ速ニ運轉ヲ停止シ得ル装置ヲ設クベシ但シ連續セル一團ノ機械ニシテ共通ノ動力遮斷装置ヲ有スルモノ又ハ危険ノ虞ナキ機械ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 粘性物質ヲ煉捏スル「ローラー」ニシテ危害ヲ生ズル虞アルモノニ付テハ事故發生ノ場合ニ於テ被害者ガ直ニ運轉ヲ停止シ得ヘキ装置ヲ設クベシ

第十四條 運轉中ノ原動機、動力傳導裝置若ハ動力ニ依リ運轉スル機械ヲ取扱ヒ又ハ之ニ接近シテ作業ニ從事スル爲頭髪又ハ被服ガ之ニ捲込マレ危害ヲ受クル虞アル者ニハ危害ヲ防止スルニ適當ナル帽子又ハ作業服ヲ着用セシムベシ

職工ハ作業中前項ノ帽子又ハ作業服ヲ着用スルコトヲ要ス

第十五條 物品ノ揚卸口、槽、車軌道、階段其ノ他從業者ノ墜落シ危害ヲ生ズル虞アル箇所ニハ柵圍、扶欄、蓋等適當ナル危害豫防裝置ヲ設クベシ但シ作業上已ムヲ得ザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 作業用可搬梯子ニハ滑止其ノ他轉倒ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ爲スベシ但シ床面其ノ他ノ關係上危険ノ虞ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 機械間又ハ之ト他ノ設備トノ間ニ設クル通路ハ本令施行前既ニ設ケタルモノヲ除クノ外幅二尺六寸以上ナルコトヲ要ス但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ同ジ)ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 危険ナル箇所ニハ適當ナル標示ヲ爲スベシ

第十九條 職工ハ濫リニ危害豫防裝置ヲ取外シ又ハ其ノ效力ヲ失ハシムル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ、第二十條 地方長官ハ爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス作業場、貯藏倉庫、

置場、貯槽類又ハ容器ニ付危害豫防ノ爲必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造、取扱若ハ貯藏ヲ爲ス場所、瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ爆發ノ虞アル場所其ノ他火災ノ危険著シキ場所ニ於テハ直接作業ニ必要ナル場合

ノ外火氣ヲ使用シ又ハ火花ヲ發セシムルコトヲ得ズ但シ安全燈、電燈其ノ他危險ナキモノノ使用ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場所ニハ喫煙其ノ他不必要ナル火氣使用禁止ノ旨ヲ揭示スベシ

第二十二條 油又ハ印刷用インキ類ニ依リ浸染シタル襦袢、紙屑等ハ不燃性ノ容器ニ收メ其ノ他適當ナル處理ヲ爲スベシ

第二十三條 爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造若ハ取扱ヲ爲ス作業場又ハ常時五十人以上ノ職工ノ就業スル作業場ニハ火災等ノ場合ニ於テ容易ニ安全ナル場所ニ避難シ得ル爲適當ナル二以上ノ出口ヲ設クベシ

常時十人以上ノ職工ガ二階以上ニ於テ就業スル場合ニハ各階ニ適當ニ配置セラレ容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ通ズル二以上ノ階段ヲ設クベシ

二階以上ニ於テ就業スル職工ガ常時五十人以上ナルトキハ前項ノ階段ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- (一) 踏面七寸以上蹴上七寸以下ト爲スコト
- (二) 勾配ヲ平面ニ對シ四十度以内ト爲スコト
- (三) 高サ十二尺ヲ超ユル場合ニハ高サ十二尺以内毎ニ踊場ヲ設クルコト

(四) 幅内法三尺五寸以上ト爲スコト

(五) 廻段ヲ設ケザルコト

(六) 外側ニハ二尺七寸以上ノ扶欄ヲ設クルコト

(七) 各段ヨリ高サ五尺七寸以内ニ障碍物ナキコト

作業ノ性質、建設物ノ構造設備等ノ關係上其ノ必要ナキ場合又ハ本令施行前既ニ設ケタル建設物ニ付已ムヲ得ザル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前三項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第二十四條 地方長官ハ火災等ノ場合ニ於ケル避難ノ爲作業場ノ通路、階段及出口ノ設置構造ニ付必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十五條 第二十三條ノ規定ニ依ル出口、前條ニ依リ設置ヲ命ゼラレタル出口及之ニ通ズル通路若ハ階段ニシテ常時使用セザルモノニハ適當ナル標示ヲ爲シ何時ニテモ避難シ得ル様有效ニ保持スベシ

第二十六條 瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル場所又ハ爆發ノ虞アル場所ニハ之ガ危害ヲ豫防スル爲其ノ排出密閉其ノ他適當ナル設備ヲ爲スベシ

第二十七條 左ニ掲グル場所ニハ必要アル者以外ノ者ノ立入ルコトヲ禁止シ其ノ旨揭示スベシ

- 一 爆發性、發火性又ハ引火性料品ノ製造、取扱又ハ貯藏ヲ爲ス場所
 - 二 毒劇藥、毒劇物又ハ其ノ他ノ有害料品ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス場所
 - 三 瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル場所
 - 四 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ場所
- 前項ニ依リ禁止セラレタル場所ニハ職工ハ濫リニ立入ルコトヲ得ズ
 地方長官ハ第一項ノ場所ニ於ケル作業ニ關シ他種ノ作業ノ禁止其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十八條 研磨機ニ依ル金屬研磨、炭酸含有清涼飲料水ノ罐詰其ノ他物體ノ飛來ノ虞アル作業、高熱物體又ハ毒劇藥、毒劇物ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス作業、有害光線ニ曝露スル作業、多量ノ粉塵又ハ有害ノ瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル場所ニ於ケル作業其ノ他危害ノ虞アリ又ハ衛生上有害ナル作業ニ於テハ之ニ従事スル職工ニ使用セシムル爲適當ナル保護具ヲ備フベシ
 職工ハ作業中前項ノ保護具ヲ使用スルコトヲ要ス

第二十九條 衛生上有害ナル瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル工場ニ於テハ當該職工ノ爲適當ナル食事ノ場所ヲ設クベシ但シ當該職工ガ工場内ニ於テ食事ヲ爲サザル場合ニハ此ノ限ニ在ラズ
 毒劇藥、毒劇物其ノ他有害料品ノ取扱ヲ爲ス工場、多量ノ粉塵ヲ發散スル工場其ノ他ノ工場ニ

シテ作業ノ爲身體ヲ汚染スル工場ニ於テハ適當ナル洗面裝置ヲ設ケ必要品ヲ備フベシ
 前二項ノ工場又ハ高熱物體ヲ取扱フ工場ニ於テ地方長官必要ト認ムルトキハ飲料水ノ供給又ハ食事ノ場所、更衣所、含嗽裝置若ハ浴場ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

第三十條 織機ノ杼ガ杼通ノ爲緒ヲ吸出ス必要アルモノニ在リテハ緒引出具ヲ備フベシ
 職工ハ杼通ノ爲緒ヲ吸出スベカラズ

第三十一條 地方長官ハ衛生又ハ危害豫防上必要ト認ムルトキハ工場及附屬建設物ノ採光、換氣ノ爲窓面ノ増加又ハ照明裝置其ノ他適當ナル處置ヲ命ズルコトヲ得

第三十二條 工場ニハ負傷者ノ救護ニ必要ナル救急用具及材料ヲ備フベシ但シ作業ノ性質上傷害ノ虞ナキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

救急具及材料ノ備付場所及使用方法ハ之ヲ從業者ニ周知セシムベシ

第三十三條 食堂、炊事場及食器ハ常ニ清潔ニ保ツベシ

食堂及炊事場ニハ工場法施行規則第八條第一項ノ疾病ニ罹レル者ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三十四條 更衣所及浴場ハ之ヲ男女用ニ區別スベシ

第三十四條ノ二 工業主安全管理者ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツベシ
 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ安全管理者ヲ選任スベシ但シ作業ノ狀況ニ依

リ危害又ハ衛生上有害ノ虞少キ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ選任セザルコトヲ得
安全管理者ハ工業主ノ指揮ヲ承ケ工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル危害豫防及衛生ニ關スル一切
ノ事項ヲ管理ス

安全管理者ハ安全日誌ヲ作成シ危害豫防及衛生ニ關シ爲シタル處置ヲ記載シ置クベシ
第三十四條ノ三 工業主工場醫ヲ選任シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

常時百人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ工場醫ヲ選任スベシ但シ作業ノ狀況ニ依リ衛生
上有害ノ虞少キ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ選任セザルコトヲ得
地方長官必要アリト認ムルトキハ常時百人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ニ對シ工場醫ノ
選任ヲ命ズルコトヲ得

工場醫ハ醫師タルコトヲ要ス
工場醫ハ工業主及安全管理者ノ指揮ヲ承ケ工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル衛生ニ關スル事項ヲ
掌ル

工場醫ハ毎月少クトモ一回工場及其ノ附屬建設物ヲ巡視シ設備又ハ作業方法ニシテ衛生上有害
ノ虞アル場合ハ應急處置又ハ適當ナル豫防ノ處置ヲ爲スベシ

工業主ハ工場醫ヲシテ毎年少クトモ一回職工ノ健康診斷ヲ爲サシムベシ
工場醫ハ毎月少クトモ一回工場及其ノ附屬建設物ヲ巡視シ設備又ハ作業方法ニシテ衛生上有害
ノ虞アル場合ハ應急處置又ハ適當ナル豫防ノ處置ヲ爲スベシ
工業主ハ工場醫ヲシテ毎年少クトモ一回職工ノ健康診斷ヲ爲サシムベシ

工場主ハ瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ其ノ他衛生上有害ナル業務ニ従事スル職工ニ付テハ工場
醫ヲシテ毎年少クトモ二回健康診斷ヲ爲サシムベシ

其ノ年ニ於テ國民體力法ノ體力検査ヲ受ケタル者ニ付テハ一回ヲ限リ前二項ノ規定ニ依ル健康
診斷ハ之ヲ爲サシメザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ國民體力法ニ基キ體力検査ヲ行ヒタル工業
主以外ノ工業主ハ國民體力法ノ體力検査票又ハ精密検査票ノ寫ヲ作成スベシ

前三項ノ健康診斷ニ關スル記録又ハ體力検査票若ハ精密検査票ノ寫ハ三年間之ヲ保存スベシ

第三十四條ノ四 工業主安全管理者又ハ工場醫ヲ解任シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ
届出ヅベシ安全管理者又ハ工場醫死亡シタルトキ亦同ジ

地方長官必要アリト認ムルトキハ工業主ニ對シ安全管理者又ハ工場醫ノ増員又ハ改任ヲ命ズル
コトヲ得

第三十四條ノ五 工業主ハ工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル危害豫防及衛生ニ關スル事項ニ従事セ
シムル爲安全委員ヲ選任スベシ但シ常時十人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ之ヲ選任セ
ザルコトヲ得

安全委員ハ工業主、安全管理者及工場醫ノ指揮ヲ承ケ毎日工場及其ノ附屬建設物ヲ巡視シ設備
又ハ作業方法ニシテ危害ヲ生ジ又ハ衛生上有害ノ虞アル場合ハ應急處置又ハ適當ナル豫防ノ處

置ヲ爲スベシ

第三十四條ノ六 工業主安全委員會ヲ設ケタルトキハ安全委員會規則ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ届出ツベシ安全委員會規則ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第三十五條 地方長官ハ前各條ニ定ムルモノノ外工場及附屬建物竝設備ガ危害ヲ生ジ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命ズルコトヲ得

第三十六條 第十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十一條ノ場所ニ於テ喫煙ヲ爲シ其ノ他溢リニ火氣ヲ使用シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條、第二十八條第一項及第三十條ノ規定ハ本令施行後一年間、第八條、第二十三條第一項乃至第三項、第二十九條第二項及第三十四條ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタルモノニ付本令施行後一年間、第二條、第三條第一項、第四條乃至第七條、第十條乃至第十三條、第十五條、第二十六條及第二十九條第一項ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタルモノニ付本令施行後二年間之ヲ適用セ

ズ

本令施行前既ニ設ケタルモノニ付第二十三條第四項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ本令施行後四月以内ニ其ノ申請ヲ爲スベシ

昭和十三年四月十六日厚生省令第四號附則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年十月七日厚生省令第三十七號附則

本令ハ昭和十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

工場危害豫防及衛生規則施行標準

(昭和四年七月十八日附發勞第五十八號)
地方長官宛社會局長官依命通牒

第二條

一、原動機

1. 原動機ハ別室又ハ安全ナル場所ニアルモノヲ除キ係員以外ノ者ノ接近ヲ防止スベキ確實ナル柵圍ヲ設クルコト、但シ電動機及臨時ニ使用スル移動式機關ニ付テハ危險部分ニ付被覆又ハ柵圍スルヲ以テ足ルコト
 2. 勢輪^{フライホイール}ハ別室又ハ安全ナル場所ニアルモノノ外柵圍スルコト、危險特ニ甚シキ勢輪ハ別室ニアル場合ト雖モ柵圍スルコト
- 二、動力傳導裝置タル車軸、調帶、調索及調車
1. 動力傳導裝置ノ範圍ハ原動機ノ軸ニ取付ケタル調車及調帶又ハ齒輪ヨリ機械ニ動力ヲ傳フル調帶又ハ齒輪迄ノ機械的裝置及其ノ附屬物ヲ謂フコト
 2. 床面(屋外、床下、地下室ト雖モ通行又ハ作業ヲ爲ス場所ヲ含ム以下之ニ同ジ)上六尺以

内ニ在ル動力傳導裝置ノ車軸ニハ柵圍、被覆又ハ圓套等^{スクリュー}ヲ設クルコト但シ接觸危險ナキモノハ其ノ要ナキコト

水平車軸ニシテ通行又ハ作業ノタメ上ヲ跨グモノニ付テハ被覆、踏切橋等ヲ設クルコト

3. 製絲工場ノ外摺式摺輪ノ車軸ノ如キモノニシテ表面平滑ナル圓筒形車軸ニ付テハ必ズシモ柵圍、圓套等^{スクリュー}ヲ設クルヲ要セズ繼目ノ部分ノミ圓套ヲ設クルヲ以テ足ルコト

4. 床上六尺以内ニアル調帶、調索又ハ調車ニシテ作業又ハ通行ノ際上ヲ跨ギ又ハ下ヲ潜ルモノ(身體ヲ屈スルニ非ザレバ接觸スルモノ)及大サ、速度、力及周圍ノ關係上特ニ危險ナルモノニ付テハ柵圍又ハ被覆ヲ設クルコト

5. 調車間ノ距離十尺以上幅五寸以上、速度毎秒三十尺以上ノ調帶ニシテ其ノ下ヲ通行シ又ハ其ノ下ニテ作業スルコトアルベキモノニハ不意ノ切斷墜落ニ對シ下方ニ確實ナル柵圍ヲ設クルコト

6. 床上六尺以上又ハ床下若ハ地下室ニアリ平素接觸ノ危險ナキモ掃除、注油、検査、修繕等ノ場合ニ運轉中接觸スル危險アルモノニ付テハ成ルベク被覆又ハ柵圍ヲ設クルコト

三、齒輪

動力傳導裝置タル齒輪ニシテ通行及作業(掃除、注油、検査、修繕等ヲ含ム)ノ際運轉中不意

工場危害豫防及衛生規則施行標準

ニ接觸ノ危険アルモノハ凡テ被覆スルコト但シ柵圍ニ依リ接觸危険ヲ防ギ得ル場合ニハ柵圍ニテモ差支ナキコト

四、柵圍、被覆

1. 柵圍ノ高サハ左ノ標準ニ依ルコト
 - イ、危険部分ヨリ四寸未満ノ場合ニハ高サ五尺以上、危険部分ヨリ四寸以上八寸未満ノ場合ニハ高サ四尺以上、危険部分ヨリ八寸以上ノ場合ニハ高サ三尺以上トスルコト
 - ロ、危険部分ガ右高サニ達セザルトキハ危険部分ヨリ五寸以上高キヲ以テ足ルコト但シ高サ三尺ヲ下ルコトヲ得ザルコト
 - ハ、實際ノ事情ニ依リ（特ニ既設ノモノニ付テハ）危害豫防ノ目的ヲ達スルモノト認メラルル場合ハ右標準以下ナルモ差支ナキコト
2. 柵圍及被覆ハ故意ニ非ザレハ手足又ハ指ノ危険部分ニ觸ルル虞ナキモノトスルコト
3. 柵圍及被覆ハ凡テ堅牢ナルコトヲ要スルコト
4. 柵圍及被覆ハ掃除、注油、検査、修繕等ノ爲メ必要アル場合ニハ適當ナル窓又ハ戸扉ヲ設クルコト

第三 條

本條ハ床上六尺以内ニアルモノハ勿論高所ニアルモノト雖モ掃除、注油、検査、修繕等ノ爲メ通行又ハ作業中接觸スル危険アルモノニ之ヲ適用スルコト

第四 條

- 一、本條モ前條同様床上六尺以内ニアルモノハ勿論高所ニアルモノト雖モ掃除、注油、検査、修繕等ノ爲メ通行又ハ作業中接觸スル危険アルモノニハ凡テ之ヲ適用スルコト
- 二、車軸接手、車軸留輪、聯軸器、調車其ノ他廻轉部分ニ附屬セル「セツトスクリユー」、「ボルト」、「ナット」ハナルベク埋頭式ヲ用ヒ現ニ在ルモノニシテ埋頭式ニ取替ヘ難キモノニ付テハ突出部ヲ覆包スベキコト
- 楔類ノ部分ハ突出セザルモノヲ用フルカ又ハ突出部ヲ確實ニ覆包スベキコト
- 三、高所ニアル車軸ニシテ注油ハ停止中ニ行ヒ又ハ安全ナル注油装置アルモノニ付テハ調車附近ニアル突出物ヲ除クノ外本條但書末段ニ該當スルモノト認ムベキコト
- 四、調車ノ縁端ヨリ内方ニ深ク取附アル突出物ハ接觸ノ虞ナキモノト推定スルコト

第五 條

紡績ノ「ガード」ノ調帯ノ如キハ第一項ノ但書ニ該當スルモノト認ムルコト

第六 條

工場危害豫防及衛生規則施行標準

調車ト隣接調車又ハ軸承等トノ間隔(最狭部分ニ依ル)ガ調帯ノ幅ヨリ廣キコト一寸以内又ハ「ベルト」ノ幅ノ四分ノ一以内ナル場合ニハ前段ニ該當スルモノト認ムルコト

第七條

動力傳導裝置ノ軸承ニハ「オールカッブ」、「リング式」、球軸承其ノ他長期ニ亘リテ給油ノ要ナキモノ又ハ「パイプ」若ハ其ノ他ノ遠隔給油具ヲ用ヒ危險部分ニ接近シテ給油ノ要ナキ裝置ヲ設クルコト、運轉中ノ注油ヲ禁止シ又ハ注油ノ際接觸危險アル調帯、調車及車軸ニ柵圍被覆等ヲ爲ス場合ニハ該裝置ヲ設ケザルコトヲ得ルコト

(注意) 注油トハ人ガ油ヲ注グコトヲ意味シ給油トハ機械タルト人タルトヲ問ハズ廣ク油ヲ給スルコトヲ意味スルモノトス

第八條

運轉停止裝置トハ「クラッチ」ノ如キ動力遮斷裝置又ハ「スキッチ」其ノ他原動機ヲ遮斷スル裝置ヲ謂フコト

第九條

一、原動機及動力傳導裝置ノ運轉ヲ停止シテ修繕、掃除等ヲ爲シツツアル際他人カ不意ニ運轉ヲ開始スル危險アルモノニ就テハ之ヲ防止スルタメ、起動裝置(部分的停止ヲ爲シ得ル動力傳導

裝置ニアリテハ其ノ部分ノ停止裝置)ニ左ノ如キ裝置ノ取附若ハ措置ヲナスコト

イ、錠ヲカクルコト

ロ、「掃除中」、「修繕中」等適當ナル標示板ヲ取附クルコト

ハ、其ノ他適當ナル方法(例ヘバ電動機ニアリテハ責任者若ハ當該作業者自ラ「ブラツグ」ヲ

取外シ携行スルコト、紐ヲ以テ結エルコト等)ヲ採ルコト

二、動力ニヨリテ運轉スル機械ノ修繕、掃除中ニ於テ他人ガ容易ニ認識シ得ザル種類ノ機械(裝置ヲ含ム)ニアリテハ、其ノ起動裝置ニ、其ノ移動若ハ使用ヲ不可能ナラシムル「ピン」其ノ他適當ナル裝置ヲ取附クベキコト

第十條

一、機械動力輪

機械動力輪ハ作業上已ムヲ得ザルモノ、動力弱小若ハ速度緩ニシテ危險ナキモノ又ハ通行者ノ接觸危險ナキモノノ外柵圍被覆ヲ附スベキコト

二、機械ノ突出物

機械ノ廻轉部分ニシテ接觸危險アル部分ニ附屬セル「セツトスクリユー」、「ボルト」、「ナツト」及「キー」類ノ頭部ハ已ムヲ得ザル場合ノ外突出セザルモノヲ用フルカ又ハ安全ナル被覆

工場危害豫防及衛生規則施行標準

ヲ爲スコト

三、機械ノ齒輪

1. 機械ノ齒輪ニシテ作業者又ハ通行者ノ接觸ノ危険アルモノハ凡テ被覆スルコト、例ヘバ紡織機械ニ於テ之ニ該當スルモノヲ例示スレバ左ノ如シ
イ、織機ニアリテハ「タベツトホキール」ト「クランクホキール」トノ外側ニ「バランスホキール」若ハ柵圍ナキモノ
ロ、繰返機(廻機ヲ含マズ)ノ「ラック」ト「ピニオン」ニシテ機械端ニアリテ露出セルモノ
ハ、糊槽ノ攪拌機及糊付機ノ傘齒輪ニシテ安全ナル位置ニ在ラザルモノ
ニ、紡織機械ノ一部ヲナス露出セル齒輪(運轉中掃除スル虞アルモノハ第十一條ニ依リ運轉ヲ停止スルニ非ザレハ被覆ヲ取り外ス能ハザル装置トナスコト)
2. 接觸危険アル部分ガ嚙合部ヨリ外方ニ向テ廻轉シ嚙合部ハ接觸危険ナキモノニ就テハ被覆ヲ要セザルコト
3. 齒輪被覆ハ少クトモ齒根迄被フコト但シ既設ノモノニシテ周圍ノ狀況ニ依リ其ノ必要ナシト認メラルモノニ就テハ齒根ニ及バザルモ差支ナキコト

四、鋸 機

1. 圓鋸機ニハ已ムヲ得ザル場合ノ外割刃其ノ他ノ反撥豫防装置ヲ附スルコト
2. 中形又ハ小形ノ圓鋸機ニ付テハ成ルベク適當ナル接觸豫防装置ヲ附スルコト
3. 帶鋸及振子鋸ニ付テハ切斷ニ必要ナル部分ノ外ハ凡テ覆ヒ且成ルベク材木ノ大サニ應ジ調節シ得ル装置ヲ爲スコト

五、「ローラー」及「カレンダー」

1. 紙、布等ヲ通ス「ローラー」及「カレンダー」ノ嚙合部ニシテ手ノ捲込マルル虞アル箇所ニハ已ムヲ得ザル場合ノ外適當ナル「ガード」(「ドクター」ヲ含ム)ヲ附スルコト
 2. 練篠機ノ「カレンダーローラー」ハ「クリヤラープレート」ヲ以テ當時「カレンダーローラー」ノ表面ヲ被覆スルコト
 3. 「リング」精紡機及捻絲機ノ「ダブルチンローラー」ニハ「ローラーガード」ヲ嚙合側ニ取附クルカ「スプリングピース」ニ固定棒ヲ水平ニ取附クルコト
- 六、「パンチ」、「プレッス」、「シーヤ」、「カッター」

1. 成ルベク材料送給及取出シニ直接手ヲ用ヒサル装置ヲ用フルコト
2. 材料ヲ手ニテ送給又ハ取出スモノニ付テハ各種機械ニ付實際ノ事情ニヨリナルベク左ノ如キ適當ナル装置ヲ附スルコト

- イ、金型及刃物間ニ手ヲ入ルルコトヲ要セザルモノ
- ロ、截斷部分ハ被ハレタルモノ
- ハ、其ノ他適當ナル安全裝置

七、鉋機

1. 刃物取附軸ハ成ルベク角軸ヲ廢シ丸軸ニ改ムルコト
2. 成ルベク自動送給式ヲ用フルコト

八、機織ノ杼

杼ノ脱出ヲ防グ爲「シヤトルガード」(機織ノ兩側ノ網ヲ含ム)ヲ附スルコト但シ「ラツク」ニ依ル杼ノ運轉裝置ヲ有スルモノ、經絲切斷停止裝置ヲ有スルモノ、絹織物、小幅木綿其ノ他ノ織機ニシテ脱出スルモ力弱キモノ又ハ事實上殆ンド杼ノ脱出ノ事例ナキモノニ付テハ其ノ要ナキコト

九、研磨機ニハ堅牢ナル保護「ガード」ヲ附スルコト但シ金屬、木質、布皮等ヲ材料トシ危險ノ虞ナキモノ及小形ノモノヲ除ク

十、其ノ他「カム」摩擦聯動機「シリンダー」等機械ノ危險ナル部分ニハ已ムヲ得ザル場合ノ外適當ナル安全裝置ヲ設クルコト

十一、機械ノ柵圍、被覆ニ付テハ第二條ノ四ヲ準用スルコト

第十二條

- 一、絲工場ノ摺輪ノ車軸ニ付テハ各窓毎ニ動力遮斷裝置ヲ設クルヲ要セザルコト
- 二、運轉停止裝置トハ遊車「クラツチ」、「スキツチ」等ノ動力遮斷裝置ヲ謂フコト
- 三、連續セル一團ノ機械トハ工程ノ連續セル機械ニシテ各機ガ一室ニ在リテ近ク集約セルモノヲ謂フコト

第十三條

「ゴム」又ハ「エボナイト」ヲ煉捏スル「ローラー」ニハ本條ヲ適用スルコト

第十四條

紡績ノ粗紡機又ハ組紐工場若ハ電線工場ノ組紐機其ノ他頭髮ガ捲込マルル虞アル機械ヲ取扱フ女子ニハ帽子ヲ着用セシムルコト

第十五條

柵圍又ハ扶欄ノ高サハ二尺七寸以上トスルコト但シ既設ノモノニ付テハ二尺七寸ニ及バザルモ實際墜落豫防ノ目的ヲ達スルモノト認メラルル場合ニハ差支ナク又車軸ノ手摺ハ手ヲ支持スベキモノアルヲ以テ足ルコト

- 一、可搬梯子(脚立梯子ヲ除ク)ノ下端ニハ成ル可ク「コンクリート」又ハ鐵板ノ床ニ用フルモノハ「カーボランダム」ヲ、木又ハ土ノ床ニ用フルモノハ金屬尖端ヲ附スルコト但シ便宜布片等ヲ下端ニ卷キ附ケテ其ノ目的ヲ達スルトキハ臨時ノ處置トシテハ差支ナキコト
- 二、車軸用梯子ニハ上部ニ鈎フックヲ附スルコト
- 三、床ニ滑止ノアル場合ニハ但書ニ該當スルモノトスルコト

第十七條

通路トハ當該場所ニ於テ作業ヲ爲ス者以外ノ者ガ通行スル所ヲ謂フコト

第二十條

- 一、爆發性料品トハ左ノ如キモノヲ謂フコト
 - 鹽素酸加里、鹽素酸曹達
 - 過鹽素酸曹達、過鹽素酸アムモニヤ
 - 硝酸加里、硝酸曹達、硝酸アムモニヤ
 - 硝化棉
 - ニトロペンゾール、チニトロペンゾール、ピクリン酸其ノ他ノ芳香族ノ硝化物ニシテ爆發性ヲ

有スルモノ
セルロイド

(注意)

一、「セルロイド」ハ性質上易燃性ニシテ爆發性ニ非ザルモ實際上ハ爆發性料品ト同視スルコト

二、火藥類ニ就テハ銃砲火藥取締法令ニ依ルコト

二、發火性料品トハ左ノ如キモノヲ謂フコト
過酸化曹達

カリウム、ナトリウム

炭化石灰

生石灰

黃磷、赤磷、硫化磷

三、引火性料品トハ左ノ如キモノヲ謂フコト

エーテル、コロヂオン

二硫化炭素

アセトン

メチルアルコール、酒精

醋酸エチル、醋酸アルミ、醋酸ブチル

ガソリン(石油エーテル、石油ベンチン)、燈油

ベンゾール、トルオール、キシロール、ソルベントナフサ

テレピン油

原油、石油製品、タール類、其ノ製品又ハ樹脂若ハ瀝質物ノ乾餾製品其ノ他ニシテ「アーベル、ペンスキー」閉塞式發焰試験器ヲ用ヒ氣壓七六〇耗ニ於テ攝氏七十度未滿ノ溫度ニテ發焰スルモノ

四、分量輕少ナル場合ニハ本條ヲ適用セザルコト

第二十一條

一、爆發性、發火性若ハ引火性料品ハ前條ト同様ナルコト但シ生石灰ヲ除ク

二、爆發ノ危険アル粉塵ヲ例示スレバ左ノ如キモノナルコト但シ分量少キ場合ヲ除ク
石炭、木炭、骸炭類ノ粉末

マルミニウム粉、青銅粉等ノ金屬性粉末

粉、糖

澱粉、穀粉

コルク粉、木粉其ノ他動物性粉末

三、爆發ノ危険アル瓦斯又ハ蒸氣ノ主タルモノヲ例示スレバ左ノ如キモノナルコト

アセチレン瓦斯

水素瓦斯

引火性料品ノ蒸氣

四、其ノ他火災危険著シキ場所ノ顯著ナルモノヲ例示スレバ左ノ如キモノナルコト

多量ノ薬ヲ取扱フ工場

製紙工場ニ於ケル多量ノ紙屑、縹縷、薬等ノ散亂セル場所、油浸縹縷ノ置場、紙屑若ハ縹縷ノ

置場若ハ倉庫

製綿工場

混打綿、梳綿、起毛、反毛等ノ作業場

五、第二項ノ揭示ハ「火氣嚴禁」、「喫煙禁止」等ノ揭示ヲ以テ足ルコト

第二十三條

工場危害豫防及衛生規則施行標準

- 一、踊場ハ長サ三尺五寸以上トスルコト
- 二、扶欄ノ高サハ階段踏面ノ中央ニテ垂直ニ測ルコト

第二十六條

- 一、左ノ如キ有害ナル瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル場所（其ノ分量ノ少クシテ衛生上害ナキ場合ヲ除ク）ハ本條ヲ適用スルコト
 - 水銀又ハ其ノ化合物（朱ノ如キ無害ナルモノヲ除ク）
 - 鉛又ハ其ノ化合物
 - 酸化亞鉛（亞鉛又ハ其ノ合金ヲ熔融スル場合ノ煙氣）
 - 黃磷又ハ磷化水素
 - 砒素化合物
 - チアン化合物
 - クロム化合物
 - マンガン化合物
 - クロール、臭素
 - 弗化水素、鹽酸蒸氣

- 硫酸蒸氣、亞硫酸瓦斯、硫化水素
- 硝氣（酸化窒素類）
- アンモニア
- 一酸化炭素
- 二硫化炭素
- フォルムアルデヒド
- アクロレイン
- エーテル蒸氣
- 醋酸エチル、醋酸アミル
- 四鹽化エタン
- テレピン油
- タール蒸氣、ベンゾール、アニリン其ノ他ノ芳香族及其ノ誘導體
- 石油瓦斯及蒸氣
- 多量ノ炭酸瓦斯
- 多量ノ硅砂塵又ハ之ニ類スルモノ

工場危害豫防及衛生規則施行標準

- 二、瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ爆發ノ虞アル場所トハ第二十一條ノ二及三ニ掲グルモノヲ發散シ爆發ノ危険アル場所ヲ謂フコト
- 三、羊毛、綿、麻、セメント等ノ粉塵ノ發散甚シキ場所ニハ除塵裝置ヲ爲スコト
- 四、瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ハ先ヅ發生ヲ防止スルカ、又ハ發生ノ局所ヲ密閉スルニ努メ其ノ不可能ナルトキハ成ルベク發生ノ局所ニ於テ吸引排出スル裝置ヲ設クルコト
- 五、右方法ニ依リ充分ニ排除シ難キ場合ニハ作業室全體ヲ大キクシ天井ヲ高クシ換氣ヲ計ル等適當ナル方法ヲ講ズルコト

第二十七條

- 一、第一項第一號ハ第二十條ニ付掲ゲタル料品ト同様ナルコト
- 二、第一項第二號ノ毒劇藥、毒劇物ハ明治四十五年內務省令第二號及第六號ニ依ルコト
- 三、毒劇藥、毒劇物以外ノ有害料品ノ主ナルモノヲ掲グレバ左ノ如キモノナルコト

水 銀

鉛又ハ鉛合金ノ粉末

鉛 炭

炭酸鉛

過酸化滿俺、過滿俺酸加里

ベンゾール、トルオール、キシロール

タール類

石油類

硫化水素

アセトン

染料及中間物（無害ナルモノヲ除ク）

- 四、第一項第四號ハ熔融若ハ灼熱セル金屬、煮沸セル若ハ高温ナル液體又ハ燒鑛等ノ取扱ハルル場所ヲ謂フコト

酒造工場及手吹製煙工場ノ種取リ作業ヲ爲ス場所ノ如キハ之ヲ含マザルコト

- 五、第一項該當業務ハ成ルベク他ノ作業ト隔離シ又ハ障壁ヲ以テ遮斷スベキコト

- 六、分量輕少ノ場合ニハ本條ノ適用ナキコト

第二十八條

- 一、物體ノ飛來ニ依ル危険ニ對シテハ物體ノ飛來自體ヲ防グベキ裝置ヲ設クルコトヲ第一トシ右豫防裝置ヲ設ケ難キ場合又ハ右豫防裝置ヲ設クルモ尙危害ノ虞アル場合ニ保護具ヲ使用セシム

工場危害豫防及衛生規則施行標準

- ルコト、豫防装置ニ依リ完全ニ物體飛來ノ危険ヲ防キ得ル場合ニハ保護具ヲ要セザルコト
- 二、有害光線トハ紫外線、レントゲン線、白熱光線及眩光等ヲ謂フコト
- 三、多量ノ粉塵トハ植物性（綿絲、襪襪等）タルト動物性（毛、骨粉等）タルト礦物性（土、石、金屬等）タルトヲ問ハズ中毒危険ナキモ多量ナル爲衛生上有害ナルモノヲ謂フコト
- 四、有害ノ瓦斯、蒸氣又ハ粉塵トハ第二十六條ノ一ニ列舉シタルモノト同様ナルコト
- 五、有害光線ニ對スル保護具トシテハ光線ノ種類ニ應ジ其ノ除害ニ適當ナル眼鏡ヲ、瓦斯、蒸氣、粉塵ニ對シテハ呼吸用保護具ヲ使用スベキコト
- 六、有害ノ程度重キトキハ呼吸用保護具ニ中和劑又ハ吸收劑ヲ用フルカ、送氣式ノモノヲ用フルコト、有害ノ程度輕キトキハ手拭ニテモ差支ナキコト
- 七、皮膚ヲ甚シク汚染シ又ハ腐蝕傷害スル虞アル場合ニハ手袋等適當ナル保護具ヲ使用セシムルコト、尤モ適當ナル豫防劑ニ依リ危害豫防ノ目的ヲ達スルトキハ保護具ノ要ナキコト
- 八、保護具ハ當該作業ニ從事スルコトアルベキ職工ノ員數ト同數以上備フルヲ要スルコト
- 九、保護具ハ常ニ有效且清潔ニ維持スベキコト

第二十九條

- 一、第一項ハ第二十六條ノ一ト同様ナルコト

- 二、毒劇藥、毒劇物及有害料品ハ第二十七條ト同様ナルコト
- 三、洗滌ニ石鹼ヲ必要トスル場合ニハ職工各自ニ石鹼ヲ支給シアル場合ノ外石鹼ヲ備フベキコト
- 四、手ノ汚染ガ「ブラツシ」ヲ用フルニ非ザレバ清潔ニ洗滌スルコト能ハザル場合ニハ「ブラツシ」ヲ備附クルコト
- 五、多量ノ高熱物體ヲ取扱フ工場ニ於テハ清潔ナル飲料水ヲ供給スルコト
- 六、第二十六條前段ニ該當スル工場ニシテ必要アル場合ニハ含嗽装置ノ設備ヲ爲スコト
- 七、第二項ノ工場ニ付テハ附近ニ浴場アリテ職工ガ充分ニ之ヲ利用スト認メラルル場合ヲ除キ浴場ヲ設置スルコト
- 八、浴場ノ湯ガ汚濁甚ダシキトキハ二槽式トシ先ヅ一方ニ於テ粉塵ヲ洗ヒ落シタル後更ニ他方ニテ洗ヒ清ムル装置ト爲スコト
- 九、毒劇藥、毒劇物其ノ他有害料品ノ取扱ヲ爲ス工場ニハ作業服ト通常服トヲ取替フルタメ更衣室ヲ設クルコト

第三十條

- 一、緒ヲ口ヒテ吸取ル舊來ノ杼ニ在リテハ適當ナル「ブラツシ」、「フツク」等ノ緒引出具ヲ使用セシメ、口ニテ吸取ルコトヲ禁止スルコト

二、成ルヘク「ハンドスレッチング、シアツトル」、「オートマチック、ホビン、チエンチング、シアツトル」等緒ヲロニテ吸取スルコト能ハザルモノヲ使用スルコト

第三十一條

- 一、作業場ノ窓面ノ有效採光面積ノ床面積ニ對スル比ハ成ルベク五分ノ一以上トシ特別ノ事情ナキ限り最低八分ノ一トスルコト
- 二、開放シ得ベキ窓面積ノ床面積ニ對スル比ハ特別ノ事情ナキ限り十六分ノ一以上トスルコト
- 三、細目ノ判別ヲ必要トスル精密作業ニ付テハ人工照明ハ五呎燭(五十ルツクス)以上トスルコト
- 四、照明不完全ノ爲災害事故又ハ視力障害ヲ起シタル事例アルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ人工照明ノ燭光増加又ハ改善ヲ計ルコト

第三十二條

- 一、救急用具及材料ハ最小限度左ノ如キ品ヲ備フルコト
 繻帶材料(滅菌ガーゼ、巻繻帶)ピンセット、局方沃度丁幾(約三%)
- 二、高熱物體ヲ使用スル工場其ノ他火傷ノ危険アル工場ニハ右ノ外「オリーブ」油又ハ胡麻油(煮沸等ノ方法ニ依リ滅菌シタルモノ)ヲ備フルコト
- 三、重傷者ヲ惹起スル虞アル工場ニ於テハ右ノ外止血帶、副木、興奮劑及擔架ヲ備フルコト

- 四、救急用具及材料ハ之ヲ箱ニ入レテ清潔ニ保ツコト
- 五、救急箱ニハ説明書ヲ附シ赤十字等目ニツキ易キ標示ヲ附シ置クコト

昭和十三年五月五日附發勞第二九號ノ二地方長官宛厚生次官依命通牒

工場危害豫防及衛生規則ノ施行標準ニ關シテハ昭和四年七月十八日附發勞第五八號ヲ以テ社會局長官ヨリ通牒相成候處今回ノ改正ニ伴ヒ新ニ追加セラレタル事項ノ施行ニ關シテハ左記標準ニ準據セシムル様致度

第三十四條ノ二

- 一、安全管理者選任ノ届出書ニハ履歷書ヲ添附スルコト
- 二、安全管理者二人以上ヲ選任シタルトキハ其ノ權限ヲ定メ地方長官ニ届出ヅルコト
- 三、安全管理者ハ工場長、技師長若ハ安全管理ニ付之ト同等ノ資格アル者ノ中ヨリ選任スルコト
- 四、常時百人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ニ在リテハ工業主自ラ安全管理者ト爲ルコトヲ妨ゲザルコト
- 五、安全日誌ニハ左記事項ニ付之ヲ記載スルコト

1. 危害豫防ニ關シ爲シタル事項

工場危害豫防及衛生規則施行標準

- 2. 保健衛生ニ關シ爲シタル事項
- 3. 災害事故ニ關スル事項

イ、災害發生ノ原因、狀況及之ニ對シ執リタル處置
 ロ、類似災害ノ再發防止ニ付爲シタル處置

- 4. 工場醫又ハ安全委員ヨリ申告アリタル重要事項
- 5. 當該官吏ヨリ命ゼラレタル事項
- 6. 其ノ他參考トナルベキ事項

第三十四條ノ三（昭和十五年十月八日附厚生省發勞第六〇號
 地方長官宛 厚生次官依命通牒ヲ以テ改正）

一、工場醫ハ囑託醫タルコトヲ妨ゲザルコト但シ常時千人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ在リテハ成ルベク專屬醫タルコト

二、工場醫選任ノ届出書ニハ履歴書ヲ添附スルコト

三、工場醫ノ行フベキ健康診斷ハ概ネ左ノ項目ニ付之ヲ行フコト

- 1. 身長、體重、胸圍
- 2. 視力、聽力
- 3. 感覺器、呼吸器、循環器、消化器、神經系其ノ他ノ臨床醫學的検査

其ノ年二回以上ノ健康診斷ヲ行フ場合ニ於テハ身長、體重及胸圍ノ測定並ニ視力及聽力ノ検査ハ之ヲ一回行フヲ以テ足ルコト

四、二十歳未滿ノ者ニ付テハ「ツベルクリン」皮内反應検査ヲ行フコト但シ反應陽性ナルコト明カナル者又ハ工場醫ニ於テ不適當ト認ムル者ニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得ルコト

五、業務ノ種類又ハ作業ノ状態ニ依リ必要アリト認ムル場合ハ第三項以外ノ項目ニ付テモ検査ヲ行ヒ特ニ職業性疾患ニ付留意スルコト

六、毎年少クトモ二回健康診斷ヲ爲サシムベキ衛生上有害ナル業務ノ主ナルモノヲ掲グレバ左ノ如キモノヲ取扱フ場所ニ於ケル業務ナルコト

水銀又ハ其ノ化合物（朱ノ如キ無害ナルモノヲ除ク）

鉛又ハ其ノ化合物

酸化亞鉛（亞鉛又ハ其ノ合金ヲ熔融スル場合ノ煙氣）

黄磷又ハ磷化水素

砒素化合物

チアン化合物

クローム化合物

- マンガン化合物
- クロール、臭素
- 弗化水素、鹽酸蒸氣
- 硫酸蒸氣、亞硫酸瓦斯、硫化水素
- 硝氣（酸化窒素類）
- アンモニア
- 一酸化炭素
- 二硫化炭素
- フォルムアルデヒド
- アクロレイン
- エーテル蒸氣
- 醋酸エチル、醋酸アミル
- 四鹽化エタン
- テレピン油
- タール蒸氣、ベンゾール、アニリン其ノ他ノ芳香族及其ノ誘導體

- 石油瓦斯及蒸氣
- 多量ノ炭酸瓦斯
- 多量ノ硅砂塵又ハ之ニ類スルモノ
- ラヂウム其ノ他ノ放射能物質
- 紫 外 線
- レントゲン線
- 白熱光線
- 眩 光
- 七、工場醫ハ健康診斷ノ結果特ニ休業、治療又ハ一定ノ保護ヲ必要ト認ムルモノニ付テハ其ノ旨
工業主ニ申告スルコト
- 八、工場醫ハ健康診斷ノ結果ヲ職工別ニ記載シ置クコト
工業主ハ遲滞ナク前項ノ結果（工場危害豫防及衛生規則第三十四條ノ三第九項ノ規定ニ依リ健康診斷ヲ爲サシメザリシ者ニ付テハ體力検査ノ結果）ヲ別記様式ニ依リ地方長官ニ報告スルコト
- 九、工業主、工場醫其ノ他關係者ハ故ナク健康診斷ノ結果知り得タル人ノ秘密ヲ漏洩セザルコト

第三十四條ノ五

別記様式 健康診断状況報告

工場所在地		工場主名					
工場名		職工数		男	計	女	計
事業ノ種別		診断施行年月日		昭和 年 月 日			
病名種類	性別 年齢別	男			女		
		十六歳未満ノ者	十六歳以上ノ者	計	十六歳未満ノ者	十六歳以上ノ者	計
結核病	結核病						
	寄生蟲病						
全身病	感冒						
	脚氣						
神疾	レウマチス						
	其ノ他						
神經系患	神經衰弱						
	神經痛						
眼疾ノ患	視力障碍						
	トラホーム						
耳疾ノ患	其ノ他						
	聽力障碍						
循環器患	中耳炎						
	其ノ他						
呼吸器患	心臟ノ疾患						
	血管ノ疾患						
消化器患	其ノ他						
	鼻ノ疾患						
皮膚疾ノ患	氣管ノ疾患						
	其ノ他						
關節器患	齒疾						
	胃炎						
職再	其ノ他						
	瘰癧						
ツクベリ	濕疹						
	其ノ他						
陰陽性	關節炎						
	其ノ他						
検査人員	職業病						
	皮膚反應						
検査人員	陰陽性						
	陰陽性						
検査人員	検査人員						
検査人員	検査人員						

備考 陽性トシテ記入スルコト 其ノ年「ツベルクリン」皮内反應ニ關スル検査ヲ爲サザルモ前年ニ於テ陽性ナリシトキハ其ノ年ニ於テモ

工場危害豫防及衛生規則施行標準

一二七

- 一、安全委員ハ職員及職工ヨリ之ヲ選任スルコト
 - 二、安全委員ハ概ネ職工數三十人乃至五十人ニ付一人ノ程度ヲ標準トシテ之ヲ選任スルコト
 - 三、工業主ハ安全委員ノ氏名、作業場別、職務別ヲ記載シタル名簿ヲ作成シ置クコト
- 第三十四條ノ六
- 安全委員會規則ニハ概ネ左記事項ヲ規定スルコト
1. 委員會ノ名稱
 2. 委員會ノ目的
 3. 委員會ノ事業
 4. 委員ノ選任方法
 5. 役員ノ選任方法
 6. 委員及役員ノ任期
 7. 其ノ他必要ナル事項

工場附屬寄宿舎規則

昭和二年四月六日內務省令第二十六號
昭和四年八月二十三日內務省令第三十六號改正
昭和十五年十月七日厚生省令第三十八號改正

第一條 本令ハ工場法第一條ノ工場ニ附屬スル寄宿舎ニ之ヲ適用ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル作業場アルトキハ保安上又ハ衛生上ノ害ヲ避クル爲メ寄宿舎ノ寢室ハ之ト別建物ト爲スベシ但シ除害、豫防又ハ避難ノ設備アル場合ニ於テ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ許可ヲ受ケタルトキハ別建物ト爲スコトヲ要セズ

一 爆發性、發火性若ハ引火性料品又ハ多量ノ易燃性料品ヲ取扱フ作業場

二 窯爐ヲ使用スル作業場

三 瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル作業場

地方長官前項ノ寢室ニシテ保安上危險ノ虞アリ又ハ衛生上有害ナリト認ムルトキハ除害、豫防又ハ避難ノ設備ヲ命ジ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

第三條 寢室ハ建物ノ三階以上ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ建物ノ外壁、床、屋根、階段及柱ヲ市街地建築物法施行規則第一條ニ規定スル耐火構造ト爲シタル場合又ハ本令施行ノ際現存スル寄宿舎ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條ノ二 常時十五人以上ノ職工ガ二階以上ノ寢室ニ居住スル建物ニ在リテハ各階ニ適當ニ配

置セラレ容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ通ズル二以上ノ階段ヲ設クベシ但シ二階以上ノ寢室ニ居住スル職工ガ常時五十人ニ滿チザル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタル避難斜面其ノ他適當ナル避難設備アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二階以上ノ寢室ニ居住スル職工ガ常時五十人以上ナルトキハ前項ノ階段ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ建物ノ外壁ニ附セラレタル屋外階段ニ付テハ第五號及第八號ノ規定ヲ適用セズ

一 踏面七寸以上蹴上七寸以下ト爲スコト

二 勾配ヲ平面ニ對シ四十度以內ト爲スコト

三 高さ十二尺ヲ超ユル場合ニハ高さ十二尺以內毎ニ踊場ヲ設クルコト

四 踊場ハ長さ三尺五寸以上トナスコト

五 蹴込板又ハ裏板ヲ附スルコト

六 廻段ヲ設ケザルコト

七 外側ニハ二尺七寸以上ノ扶欄ヲ設クルコト

八 幅内法三尺五寸以上ト爲スコト

九 各段ヨリ高さ五尺七寸以內ニ障礙物ナキコト

前二項ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタル建物ニシテ地方長官已ムコトヲ得ズト認メ許可シタル

モノニ付之ヲ適用セズ

第三條ノ三 階段竝之ト連絡スル通路及出口ニシテ常時使用セザルモノニ付テハ之ニ適當ナル標示ヲ爲シ何時ニテモ避難ノ用ニ供シ得ル様有效ニ保持スベシ

第四條 寄宿舍ノ廊下ヨリ屋外ニ通ズル出入口ノ戸ハ外開戸又ハ引戸ト爲スベシ

寄宿舍ハ何時ニテモ容易ニ外部ニ避難シ得ル様ニ爲シ置クコトヲ要ス

第五條 寢室、食堂、病室其ノ他職工（徒弟ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ居住ノ用ニ供スル室ノ天井高ハ七尺以上ト爲スベシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 寢室及病室ニハ屋根小屋組ヲ露出セザル様天井ヲ設クベシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニシテ防鼠ノ爲屋根小屋組ヲ露出シタルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 寢室及病室ノ外窓ニハ少クトモ雨戸及障子ヲ設ケ又ハ硝子戸及窓掛ヲ設クベシ寢室及病室ト廊下トノ間ニ戸、障子、壁ノ類ノ設ケナキ場合ニ於テ其ノ廊下ノ外窓ニ付亦同ジ

寢室及病室ト廊下トノ間ニ紙障子ノミヲ設ケル場合ニ於テハ其ノ廊下ノ外窓ニ雨戸又ハ硝子戸ヲ設クベシ

第八條 食堂及炊事場ノ床ハ土間（石敷又ハ三和土叩ノ類ヲ含マズ）ト爲スコトヲ得ズ

第九條 寢室ハ收容人員一人ニ付室面積（押入及床ノ間ヲ除ク）〇・七五坪ヲ下ルコトヲ得ズ但シ臨時必要アル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 寢室ノ收容定員ハ一室ニ付十六人ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニシテ構造上間仕切ヲ爲スコトヲ不適當トスルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

寢室ニハ之ニ收容スル者ノ氏名及定員ヲ入口ニ掲グベシ

第十一條 交替就業ノ爲就眠時間ヲ異ニスル二組以上ノ寄宿舍工ヲ同一ノ寢室ニ收容スルコトヲ得ズ但シ十六歳未満ノ者及女子ヲ收容セザルモノニシテ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 寄宿舍ニハ職工毎ニ専用セシムル爲必要ナル寢具ヲ備附クベシ

寢具ハ少クトモ其ノ襟部ヲ白布ニテ被包シ且敷布ヲ備フベシ

寢具ハ常ニ清潔ニ保チ時々之ヲ日光ニ曝シ且其ノ白布及敷布ハ時々之ヲ洗濯スベシ

第十三條 食堂ニハ職工ヲシテ坐食ヲ爲サシムル場合ヲ除クノ外必要ナル腰掛又ハ椅子ヲ備附クベシ

第十四條 寄宿舎ニ於テ使用スル食器ハ常ニ清潔ニ保チ時々消毒スベシ

第十五條 寄宿舎ニハ工場法施行規則第八條第一項ノ疾病ニ罹レル者ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十六條 寄宿舎ニ收容スル職工及寄宿舎ニ使用スル者ニ對シテハ少クトモ一年二回健康診断ヲ施行スベシ

其ノ年ニ於テ國民體力法ノ體力検査ヲ受ケタル者ニ付テハ一回ヲ限リ前項ノ規定ニ依ル健康診断ハ之ヲ施行セザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ國民體力法ニ基キ體力検査ヲ行ヒタル工業主以外ノ工業主ハ國民體力法ノ體力検査票又ハ精密検査票ノ寫ヲ作成スベシ

前項ノ健康診断ニ關スル記録又ハ體力検査票若ハ精密検査票ノ寫ハ三年間之ヲ保存スベシ

第十七條 寄宿舎ニハ液體ヲ入レタル適當箇數ノ唾壺ヲ配置スベシ

唾壺内ノ唾痰ハ消毒シタル後ニ非ザレバ之ヲ投棄スルコトヲ得ズ

寄宿舎ニ於テ唾壺以外ニ唾痰ヲ略出スルコトヲ得ズ

第十八條 寄宿舎ニ於テハ共用手拭ヲ備フルコトヲ得ズ

「トラホーム」患者ノ使用スル洗面器ハ之ヲ健康者ニ使用セシムルコトヲ得ズ
手流水ハ流出装置トスベシ

第十九條 工場法施行規則第八條第一項第二號乃至第五號（流行性腦脊髄膜炎ヲ除ク）ノ患者ノ

使用シタル寢具其ノ他ノ物件ハ之ヲ消毒スルニ非ザレバ他ノ者ヲシテ使用セシムルコトヲ得ズ
第二號ノ患者ノ使用シタル寢室ニ付亦同ジ

前項及第十七條第二項ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ傳染病豫防法施行規則第五章ノ規定ニ依ルベシ但シ藥物ヲ以テ唾痰ヲ消毒スルニハ鹽酸加石炭酸水（防疫用石炭酸五分鹽酸一分水九十四分）ヲ使用スベシ

第二十條 寄宿舎ニハ之ニ收容スル職工ノ數ニ應ジ適當且十分ナル便所及洗面裝置ヲ設クベシ

地方長官前項ノ便所又ハ洗面裝置不適當又ハ不十分ト認メタルトキハ期間ヲ定メ變更又ハ増設ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 寄宿舎ノ管理ニ關シ規程ヲ設ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十二條 本令並寄宿舎ノ管理ニ關スル規程ハ之ヲ見易キ場所ニ揭示スベシ

第二十三條 本令第二條、第三條、第四條第一項、第五條、第六條、第八條、第十條、第十一條及第十六條ノ規定ハ常時十人未滿ノ職工ヲ收容スル寄宿舎ニ之ヲ適用セズ

附 則

本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條及第十三條ノ規定ハ本令施行後一年間、第二條、第七條、第八條及第十二條ノ規定ハ本令施行後二年間、第六條及第九條乃至第十一條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セズ
第三條又ハ第五條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ本令施行ノ日ヨリ二月以内ニ之ヲ爲スベシ

昭和四年八月二十三日内務省令第三十六號附則

本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ規定ハ本令施行後二年間之ヲ適用セズ

昭和十五年十月七日厚生省令第三十八號附則

本令ハ昭和十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業法(拔萃)

明治三十八年三月法律第四十五號
大正十三年七月法律第二十二號改正
昭和十年三月三十日法律第二十四號改正
昭和十五年四月六日法律第二百二號改正

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、ニツケル鑛、コバルト鑛、磷鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青、硫黃、石膏、重晶石、明礬石、螢石及石棉ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス

炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營利ヲ目的トセスシテ單ニ一家ノ自用ニ供スルモノニハ本法ヲ適用セズ

第八條 本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ従事スル勞働者ヲ謂フ

第十二條ノ二 主務大臣及鑛山監督局長ハ鑛業權者ニ對シ鑛業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ事業場、事務所其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他

ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムヘシ

第四章 鑛業 警察

第七十一條 鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣及鑛山監督局長之ヲ行フ

- 一 建設物及工作物ノ保安
- 二 生命及衛生ノ保護
- 三 危害ノ豫防其ノ他公益ノ保護

七十二條 鑛業上危険ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ主務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

急迫ノ危険ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛山監督局長ハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

七十三條 主務大臣ハ採掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得
管理者ノ資格及職務ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

七十四條 鑛業權消滅シタル後ト雖五箇年間ハ主務大臣及鑛山監督局長ハ七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看做ス

第六章 鑛 夫

七十五條 採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及就業ニ關スル規則ヲ定メ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

七十八條 鑛業權者ハ毎月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

七十九條 主務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間並婦女、幼者ノ勞働ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

八十條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鑛夫カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘ

第八十條ノ二 鑛業權者前條ノ規定ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ鑛業權者ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

鑛業權者及鑛夫ノ出捐スル共済組合命令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權者ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セザラシムル給付ヲ爲シタルトキハ鑛業權者ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

第八十條ノ三 第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リ消滅ス

第八十條ノ四 第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第九章 罰 則

第九十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條第三項、第十一條本文、第四十三條ノ二第一項本文又ハ第四十四條ノ規定ニ違反シタル者

二 第四十三條ノ三、第四十五條、第七十二條、第七十三條第一項又ハ第七十四條第一項ノ規

定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第七十一條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者

四 第七十三條第二項ノ規定ニ基キテ管理者ノ職務ニ關シ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者

第九十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四十六條乃至第四十八條ノ規定ニ違反シタル者

二 第七十四條ノ四第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第七十五條乃至第七十八條ノ規定ニ違反シタル者

四 第七十九條又ハ第八十條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者

第九十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十二條ノ二ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十二條ノ二ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者

三 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障礙物ヲ除却シタル者

第一百三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適

用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第四百四條 法人又ハ人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務
ニ關シ本法ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコ
トヲ得ス

本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦
同シ

第二百五條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

附 則

第一百七條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

大正十三年法律第二十二號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十五年六月二十三日勅令第百九十九號ヲ以テ大正十五年七月一日ヨリ施行)

昭和十年三月三十日法律第二十四號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十一年十二月二十一日勅令第四百四十號ヲ以テ昭和十二年一月一日ヨリ施行)
鑛業法第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ノ時効ニシテ其ノ進行カ本法施行前ニ始リタル
モノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ殘期カ二年ヨリ長キトキハ其ノ
日ヨリ起算シテ第八十條ノ三ノ規定ヲ適用ス

昭和十五年四月六日法律第百二號附則

第一條 本法施行ノ期日ハ第十條ノ改正規定中要塞地帯ニ關スル部分、同條ノ改正規定中陸軍輸
送港域ニ關スル部分其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十六年五月十四日勅令第五百八十三號ヲ以テ第十條ノ改正規定ヲ除クノ外昭和十六年六月一日ヨリ施行)

第十四條 本法施行前從前ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

相當スル課程ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル學校名及修業了年月、國民學校初等科ノ課程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ニシテ十六歲未滿ノモノニ在リテハ其ノ就學スル青年學校名、入學シタル學年及入學ノ年月

六 業務ノ種類

七 雇入ノ年月日

八 雇傭期間ヲ定メタル者ニ在リテハ其ノ期間

前項ノ規定ニ依リ記載シタル事項ニ異動アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ訂正スヘシ

第四條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シ又ハ鑛夫死亡シタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ掲クル事項ヲ記入シ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

一 解雇又ハ死亡ノ年月日

二 解雇ノ事由又ハ死亡ノ原因

第五條 鑛業權者ハ鑛夫ヲシテ一日ニ付十時間ヲ超エテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ監視ヲ主トスル業務又ハ間歇的ナル業務ニ従事スル者ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受

ケタルトキハ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第六條 鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ選炭作業ニ従事スル者ニ付テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限り前項ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得

第六條ノ二 鑛業權者ハ溫度攝氏三十度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ他ノ場所ニ於ケル就業時間ト通算シテ一日ニ付八時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ溫度攝氏三十五度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第七條 鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス石炭鑛業ニ在リテハ十六歲未滿ノ者及女子、其ノ他ノ鑛業ニ在リテハ十六歲以上ノ女子ヲシテ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ午後十一時ヨリ午前六時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛夫就業扶助規則

第七條ノ二 坑内ニ就業スル鑛夫ニ付テハ坑口ニ入りタル時ヨリ坑口ヲ出デタル時迄ノ時間ヲ其ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者一團トシテ入坑及出坑スル鑛夫ニ關シ其ノ入坑開始ヨリ入坑終了迄ノ時間ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付入坑終了ヨリ出坑終了迄ノ時間ヲ其ノ團ニ屬スル鑛夫ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者坑口ニ近キ坑内ノ鑛夫點檢場所ニ關シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項及第三十五條ノ規定ノ適用ニ付其ノ場所ヲ坑口ト看做ス

第八條 鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルトキハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

第九條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ設クヘシ

第十條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムル場合ニ於テハ少クトモ四回ノ休日ヲ設クヘシ

第十一條 鑛業權者ハ變災若ハ變災ノ虞アル爲又ハ避クベカラザル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第五條第一項、第六條及第六條ノ二第一項ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ第七條及第八條乃至第十條ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得

但シ緊急ノ必要ニ應ズル爲ニ就業セシムル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルコトヲ要セス

前項但書ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ様式第四號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ヅベシ

第十一條ノ二 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ 鑛業權者ハ主トシテ薄層ヲ掘採スル石炭坑ニ就業スル鑛夫ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第十二條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ左ニ掲クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

- 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ運轉中ニ於ケル掃除、注油、檢査又ハ修理
- 二 機械又ハ動力傳導裝置ノ運轉中ニ於ケル調帶若ハ調索ノ危險ナル方法ニ依ル取附又ハ取外
- 三 汽罐ノ焚火、給水弁若ハ阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱
- 四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器、變壓器又ハ「コットレル」集塵裝置ニ屬スル整流機ノ取扱
- 五 高壓電線ノ接續
- 六 機械力ニ依リ運轉スル捲揚機ノ取扱
- 七 運轉中ノ車輛連結又ハ分離

- 八 鑛物ノ掘採及岩石ノ掘鑿
 - 九 爆發藥ノ裝填又ハ點火
 - 十 支柱ノ取附又ハ取外
 - 十一 製鍊作業ニ於テ熱灼若ハ熔解セル鑛物又ハ鑛滓ノ取扱
 - 十二 有害ナル煙塵ノ堆積セル煙道又ハ煙突ノ掃除
 - 十三 砒素、水銀、鉛若ハ亞鉛又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸汽又ハ瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務
 - 十四 電解精鍊ヲ爲ス場所ニ於ケル業務
 - 十五 鑛石、燃料其ノ他ヲ熔鑛爐ニ裝入スル業務
- 第十三條 鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者ヲシテ左ニ掲クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス
- 一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、「チアンカリウム」、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性カリ、苛性ナトロン其ノ他之ニ準スヘキ毒性又ハ劇性料品ノ取扱
 - 二 揮發油、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性料品ノ取扱
 - 三 土石又ハ鑛物ノ粉塵ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務
- 第十四條 鑛業權者ハ左ニ掲クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ掲クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 精神病

二 癩、肺結核、喉頭結核

三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髄膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病

四 微毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

五 膿漏性結膜炎、「トラホーム」(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病
鑛業權者ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹リタル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサルモノヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 鑛業權者ハ四週日以内ニ出産スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ産後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第十六條 生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分ヲ限リ其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者坑内作業ニ従事スル女子ノ生兒ノ保育ニ關シ必要ナル施設ヲ爲シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス坑内作業ニ従事スル女子ニ哺育時間ヲ與ヘサルコトヲ得

第十七條 鑛夫業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ本則ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ鑛業權者ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外鑛夫ノ解雇ニ因リテ變更セララルコトナシ

第十八條 鑛夫負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ鑛業權者ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第十九條 鑛夫療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ鑛業權者ハ鑛夫ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ

鑛夫ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ賃金百分ノ二十トス

第二十條 鑛夫ノ負傷又ハ疾病治愈シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ鑛業權者ハ別表ニ掲グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ賃金百八十分(其ノ金額男子ニ在リテハ百五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿テザルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓)ヲ下ルコトヲ得ス

別表ニ掲グル身體障害ニ以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ

左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ上グ但シ其ノ障害扶助料ノ金額ハ各身體障害ノ該當スル等級ニ依ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 第十三級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 一級

二 第八級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 二級

三 第五級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 三級

別表ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲グル身體障害ニ準ジ障害扶助料ヲ支給スベシ

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料

ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スベシ

第二十條ノ二 鑛夫重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且鑛業權者其ノ事實ニ付鑛山監督局長ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第二十一條 鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金四百日分(其ノ金額男子ニ在リテハ三百二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿チザルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓)ノ遺族扶助料ヲ支給スベシ

第二十二條 鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿チザルトキハ三十圓)ノ葬祭料ヲ支給スベシ

第二十三條 遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ鑛夫ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル鑛夫ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第二十四條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

一 鑛夫ノ家督相続人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス

二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス

三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト離之ヲ私生子ヨリ先ニス

四 前二號ニ掲クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第二十五條 第二十三條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ鑛夫ノ遺言又ハ鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

一 鑛夫ノ家督相続人又ハ戸主

二 鑛夫ノ兄弟姉妹ニシテ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在ル者

三 鑛夫死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者

鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ指定アリタルトキハ鑛業權者遲滯ナク之ヲ鑛夫名簿ニ記載スヘシ

第二十六條 第十八條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ

障害扶助料ハ鑛夫ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク之ヲ支給スベシ但シ鑛業權者ガ引續キ雇傭

スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間内障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得
遺族扶助料及葬祭料ハ鑛夫ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スベシ
鑛業権者鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ障害扶助料及遺族扶助料
ヲ數回ニ分割シテ支給スルコトヲ得

第二十六條ノ二 鑛夫健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又
ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第十八條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法
ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ
鑛夫ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭
料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付
ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第十八條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ
之ヲ爲スコトヲ要セス

第二十七條 第十八條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支
給ヲ受ケタル鑛夫療養開始後三箇年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ鑛業権者ハ賃金
五百四十日分(其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿テザルト

キハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓)ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サ
サルコトヲ得

第二十七條ノ二 鑛業権者豫メ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ鑛業権者及鑛夫ノ出捐スル
共済組合ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本則ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セス
鑛山監督局長必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十八條 鑛業権者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササル
コトヲ得

一 鑛夫ノ解雇後一箇年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法
ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ
解雇後一箇年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ
基キ請求スルトキ亦同シ

二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ鑛夫ノ解雇後ニ於
テ再發スルトキ

第二十九條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一 鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬

ノ日額

二 鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前（賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前）三月間（雇入後三月ニ滿チサルトキハ其ノ期間）ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間

二 産前又ハ産後ノ女子第十五條ノ規定ニ依リ休業シタル期間

三 試ノ雇傭期間

四 鑛業權者ノ都合ニ依リ鑛夫臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與及發明善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當ヲ包含セス

第三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ鑛山監督局長之ヲ定ム

第三十條 鑛山監督局長ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ鑛夫ノ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、別表ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第三十一條 鑛業權者ハ扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ鑛業著手前之ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

鑛業權者扶助規則ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

鑛山監督局長必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十三條 鑛業權者扶助ヲ爲シタルトキ又ハ第二十六條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタルトキハ様式第一號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十四條 鑛夫就業中又ハ事業場内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遲滯ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第三十四條ノ二 採掘權者ハ様式第二號ニ依リ第一條第一項第四號ノ歸郷旅費支給ノ狀況ヲ、様

式第三號ニ依リ同條同項第七號ノ貯金其ノ他ノ積立金ノ狀況ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十五條 鑛業權者ハ坑外ニ於テ就業スル鑛夫ニ付始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スヘシ

鑛業權者ハ坑内ニ於テ就業スル鑛夫ニ付テハ入坑ノ時刻及出坑ノ時刻並休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ入坑時刻ハ入坑ノ開始及終了ノ時刻、出坑時刻ハ出坑ノ開始及終了ノ時刻トス

鑛業權者ハ所定ノ入坑時刻又ハ入坑開始時刻前ニ入坑シタル者及所定ノ出坑時刻又ハ出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付様式第五號ニ依リ記録スヘシ

前項ノ記録ハ事由ノ發生シタル日ヨリ三年以上之ヲ保存スヘシ

第三十六條 鑛業權者ハ雇傭就業規則及扶助規則ヲ適當ナル方法ヲ以テ鑛夫ニ周知セシムヘシ

第三十七條 鑛業權者ハ鑛夫ノ雇傭、就業又ハ扶助ニ關シ紛擾ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及狀況ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十八條 雇傭就業規則ニ違反シタル探掘權者又ハ第三十一條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十九條 鑛業權者ヲシテ不正ニ扶助義務ノ全部又ハ一部ヲ免レシメ又ハ免レシメムトスル所爲ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十條 削除

第四十一條 鑛業法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 本則ハ第三十八條、第三十九條及前條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス但シ國ノ鑛業ニ於ケル鑛夫及其ノ遺族ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

附 則

第四十三條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十四條 第五條ノ規定ハ本則施行前ヨリ十歳以上ノ者ヲ引續キ就業セシムル場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テハ本則施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ其ノ鑛夫ノ氏名及生年月日ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ

第四十五條 第八條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ一年六箇月間、第十四條、第十五條、第三十三條及第三十五條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ四箇月間之ヲ適用セス(大正十五年十二月二十六日農商務省令第二十九號ニテ改正)

第四十六條 鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則竝扶助規則ニシテ本則施行前ニ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ本則施行ノ日ヨリ四箇月間ハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得但シ本則ノ規定ニ違背スルモノハ本則施行ノ日ヨリ二箇月以内ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條 第四十四條第二項又ハ前條但書ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

大正十五年六月二十四日內務省令第十七號附則

本令ハ大正十三年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十三年法律第二十二號ハ大正十五年七月一日ヨリ施行)

本令施行前ニ許可ヲ受ケタル雇傭勞役規則ニシテ本令ニ依リ變更ヲ要スルモノハ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

從前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

本令(第三條ノ改正規定ヲ除ク)中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

昭和三年九月一日內務省令第三十號附則

本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ第七條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セズ

第十一條ノ二ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セズ

昭和四年六月二十六日內務省令第二十五號附則

本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年七月六日內務省令第二十二號附則

本令ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年十二月二十一日內務省令第五十五號附則

鑛夫就業扶助規則

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前支給事由ヲ生ジタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
 本令施行ノ際現ニ休業扶助料ヲ受クル者本令施行後引續キ休業扶助料ヲ受クルトキハ本令施行後
 ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ扶助スベシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施
 行後再發シテ扶助ヲ受クルルトキ亦同ジ

昭和十四年五月十三日厚生省令第九號改正

本令ハ昭和十四年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年四月二日厚生省令第十三號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年五月十四日厚生省令第十七號附則

本令ハ昭和十五年法律第百二號（第十條ノ改正規定ヲ除ク）施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際他ノ省令ニ於テ「鑛夫勞役扶助規則」トアルハ「鑛夫就業扶助規則」トス

(別表)

等級	身體障害	障害扶助料
第一級	一 兩眼ヲ失明シタルモノ 二 咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ 三 精神ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ分護ヲ要スルモノ 四 胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ 五 半身不隨ト爲リタルモノ 六 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 七 兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 八 兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ 九 兩下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	賃金六百日分 但シ其ノ金額男子 ニ在リテハ四百八 十圓、女子ニ在リ テハ三百圓ニ滿チ ザルトキハ夫々四 百八十圓又ハ三百 圓トス
第二級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ	賃金五百三十日分 但シ其ノ金額男子

鑛夫就業扶助規則

第三級					第四級					
二	三	四	一	二	一	二	三	四	五	
兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ	兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ	兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ癱シタルモノ	精神ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ	十指ヲ失ヒタルモノ	兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ
ニ在リテハ四百三	十圓、女子ニ在リ	テハ二百七十圓ニ	満チザルトキハ夫	々々百四十圓トス	満チザルトキハ夫	々々百四十圓トス	ハ二百四十圓トス	ハ二百四十圓トス	ハ二百四十圓トス	ハ二百四十圓トス

第五級							第六級					
七	六	一	二	三	四	五	六	一	二	三	四	五
兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	十指ノ用ヲ癱シタルモノ	一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ	一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ	一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	一上肢ノ用ヲ全癱シタルモノ	一下肢ノ用ヲ全癱シタルモノ	十趾ヲ失ヒタルモノ	兩眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ	咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力耳鼓ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ	脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ	一上肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ癱シタルモノ
但シ其ノ金額男子	ニ在リテハ二百八	十圓、女子ニ在リ	テハ二百八十圓ニ	満チザルトキハ夫	々々百四十圓トス	満チザルトキハ夫	々々百四十圓トス	ハ二百四十圓トス	ハ二百四十圓トス	ハ二百四十圓トス	ハ二百四十圓トス	ハ二百四十圓トス

續夫就業扶助規則

第七級											
七	六	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ヲ失ヒタルモノ	一下肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ	一眼失明シ他眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ	鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力四十種以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ	精神ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ	胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ	一手ノ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ヲ失ヒタルモノ	一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ノ用ヲ廢シタルモノ	一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	十趾ノ用ヲ廢シタルモノ	女子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ	兩側ノ睾丸ヲ失ヒタルモノ
			賃金二百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百圓、女子ニ在リテハ二百二十五圓ニ滿チザルトキハ夫々二百圓又ハ二百二十五圓トス								

第八級

第八級										
二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	一
一眼ヲ失明シ又ハ一眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ	頸部ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ	神経系統ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ	一手ノ拇指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ	一手ノ拇指及示指又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ	一下肢ヲ五種以上短縮シタルモノ	一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ	一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ	一上肢ニ假關節ヲ殘スモノ	一下肢ニ假關節ヲ殘スモノ	一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ
										兩眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ
										賃金二百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ百六十圓、女子ニ在リテハ百圓ニ滿チザルトキハ夫々百六十圓又ハ百圓トス

續夫就業扶助規則

第十級	第十一級
二 一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	二 一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ
三 兩眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ	三 兩眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ
四 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ	四 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ
五 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	五 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ
六 咀嚼及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	六 咀嚼及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
七 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ヲ全ク聾シタルモノ	七 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ヲ全ク聾シタルモノ
八 一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモノ	八 一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモノ
九 一手ノ拇指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ	九 一手ノ拇指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ
十 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ヲ失ヒタルモノ	十 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ヲ失ヒタルモノ
十一 一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ	十一 一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ
一 一眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ	一 一眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ
二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
三 十四齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ	三 十四齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ
	シ其ノ金額男子ニ在リテハ百二十圓、女子ニ在リテハ七十五圓ニ滿チザルトキハ夫々百二十圓又ハ七十五圓トス
	賃金百二十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ九十五圓トス

四 鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力耳鼓ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ	四 圓、女子ニ在リテハ六十圓ニ滿チザルトキハ夫々九十五圓又ハ六十圓トス
五 一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ	
六 一手ノ拇指ノ用ヲ廢シタルモノ、示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ	
七 一下肢ヲ三纏以上短縮シタルモノ	
八 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ	
	賃金九十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ七十圓、女子ニ在リテハ四十圓ニ滿チザルトキハ夫々七十圓又ハ四十五圓トス

第十一級	
一 兩眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ	賃金九十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ七十圓、女子ニ在リテハ四十圓ニ滿チザルトキハ夫々七十圓又ハ四十五圓トス
二 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ	
三 一眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ	
四 鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力四十纏以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ	
五 脊柱ニ畸形ヲ殘スモノ	
六 一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ	

續夫就業扶助規則

第十二級												
七	八	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
一手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ノ用ヲ廢シタルモノ	一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ノ用ヲ廢シタルモノ	一眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ	一眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ	七齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ	一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ	鎖骨、胸骨、肋骨、肩胛骨又ハ骨盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ	一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	長管骨ニ畸形ヲ殘スモノ	一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ	一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ、第二趾ヲ併セ二趾ヲ失ヒタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ
賃金六十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ五十圓、女子ニ在リテハ三十圓ニ滿チザルトキハ夫々五十圓又ハ三十圓トス												

第十三級													
十二	十三	十四	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	
局部ニ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ	男子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ	女子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ	一眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ	一眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ	兩眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ	一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ	一手ノ拇指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ	一手ノ示指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ	一手ノ示指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ	一下肢ヲ一纏以上短縮シタルモノ	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ	一足ノ第二趾ノ用ヲ廢シタルモノ、第二趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
賃金四十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三十圓、女子ニ在リテハ二十圓ニ滿チザルトキハ夫々三十圓又ハ二十圓トス													

- (四) 健康保険法ノ保險給付期間ヲ超エ療養ノ爲休業扶助料ヲ受ケタル者但シ引續キ受ケタル者ヲ除ク
- 三 事故ノ要領ハ死亡ノ原因、別表ニ掲ケル身體障害ノ程度、身體障害ナキトキハ負傷ノ程度、病名等ヲ記載スヘシ
 - 四 賃金ハ第二十九條ノ規定ニ依ル扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金トス
 - 五 療養費ハ第十八條ノ費用トス
 - 六 障害扶助料ニ付テハ別表ニ掲ケル等級ヲ記載スヘシ
 - 七 健康保險法ノ保險期間ヲ超エ休業扶助料ヲ受ケタル者ニ付テハ備考欄ニ「保險給付超過」、健康保險ノ給付ヲ受ケ且休業扶助料ノ補給ヲ受ケル者ニ付テハ「保險給付補給」ト記載スヘシ
 - 八 法令ノ規定スル場合以外ニ扶助ヲ爲シタルトキハ記事欄ニ之ヲ記載スルヲ妨ケス
 - 九 續業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ
 - 十 續業扶助規則第二十六條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタル場合ニ於テハ障害ヲ殘シタル時及現實ニ支給シタル時何レモ本表ニ記載シ前者ノ場合ニハ延期シタル旨ヲ、後者ノ場合ニハ障害扶助料支給延期報告届出ノ年月日ヲ備考欄ニ記載スヘシ

(様式第一號乙)

種 績		扶助半年報		自昭和 年 月 分	
名稱	位置	至昭和 年 月 分	住所	住所	何 某印
			何	何	何 某印
代理人	續業代表者				

登 録 第 號

種 別	健康保險者ノ扶助				健康保險者ニ非ザル者ノ扶助				種 別
	扶助人員	扶助延日數	療養費總額	休業扶助料總額	扶助人員	扶助延日數	療養費總額	休業扶助料總額	
男									負 傷
女									疾
計									病
男									總 計
女									
計									

備考
 一 本表ハ一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分ヲ七月三十一日迄ニ、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ
 二 本表ニハ扶助月報ニテ報告シタルモノヲ除ク
 三 療養中ノ者ハ治療後ニ報告スヘシ
 四 療養費ハ第十八條ノ費用トス
 五 續業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

續業扶助規則

(様式第一號丙)

障害扶助料支給延期報告

(昭和 年 月 日届出)

記 事	種 類	種 類		種 類		支 給 延 期 の 期 間	身 體 障 害 の 部 位 等 級	障 害 扶 助 料 金 額	備 考
		名 稱	位 置	名 稱	位 置				
	男 女 別								
	氏 名								
	年 齢								
	種 業 務 ノ 類								
	負 傷 疾 病 ノ 別								
	事 故 發 生 ノ 日 付								
	扶 助 月 報 ニ 依 ル 日 付								
	治 癒 ノ 日 付								
	支 給 延 期 の 期 間								
	代 理 人								
	代 表 者								
	住 所								
	住 所								

備考

- 一 本報告ハ續夫就業扶助規則第二十六條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタル後遅滞ナク差出スベシ
- 二 本報告ニハ扶助ヲ受クベキ續夫ノ障害扶助料支給延期承諾書ノ寫ヲ添附スベシ
- 三 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ障害扶助料支給ノ後三年間之ヲ保存スベシ
- 四 本報告ハ續夫一名毎ニ用紙ヲ別ニスベシ
- 五 支給延期ノ期間欄ニハ例ヘバ履修期間中又ハ昭和 年 月 日迄ト記載スベシ
- 六 續業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スベシ

(様式第二號)

續夫歸郷旅費年報

大正 年 分

記 事	種 類	種 類		種 別	件 数	金 額	代 理 人		代 表 者	
		名 稱	位 置				代 理 人	代 表 者	住 所	住 所
	種 別									
	業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ解雇セラレ歸郷スル場合									
	未成年者又ハ女子續業權者ノ都合ニ依リ解雇セラレ歸郷スル場合									
	其 ノ 他 ノ 場 合									
	種 別									
	代 理 人									
	代 表 者									
	住 所									
	住 所									
	何 某 印									
	何 某 印									

備考

- 一 本表ハ一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ
- 二 「其ノ他ノ場合」ニ包含スル事由ノ概略ヲ記事欄ニ記載スヘシ
- 三 續業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

續夫就業扶助規則

(様式第三號)

鑛夫貯蓄金年報									
大正 年 分									
記 事	金 額	員 數	種 別	種 類		住 所		代 理 人	
				名 稱	位 置	何	何	代 理 人	代 表 者
			男						
			女						
			計						

備考

一 本表ハ十二月三十一日現在ニ依リ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ十二月三十一日前ニ休業シ

(様式第四號)

緊急ノ必要ニ因ル臨時就業届										
昭和 年 月 分										
記 事	月 日	種 類	種 業 務 類	就 業 場 所	氏 名	男 女 年 少 者 別	延 長 時 間	種 業 務 類		其ノ他ノ 事
								名 稱	位 置	

- 一 タル鑛業ニ在リテハ休業ノ際ノ狀況ニ依リ其ノ旨記事欄ニ記載スヘシ
- 二 本表ニハ信託金、積立金、其ノ他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ラス鑛夫ノ貯蓄金ニシテ鑛業權者ノ管理スルモノヲ記載スヘシ
- 三 既ニ解雇シタル鑛夫ノ貯蓄金ニシテ住所不明其ノ他ノ事由ニ因リ返還スルコト能ハサルニ依リ之ヲ管理スル場合ニハ其ノ員數及金額ヲ記事欄ニ記載スヘシ
- 四 鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

備考

一 本届出ハ其ノ寫ヲ作成シ届出後三年間之ヲ鑛業事務所ニ保存スベシ

鑛夫就業扶助規則

- 五 入坑時刻欄及出坑時刻欄ニハ其ノ者ノ入坑時刻及出坑時刻ヲ記載スベシ但シ第七條ノ二第二項ノ許可アル場合ニ於テ所定入坑時間内ニ入坑シタルモノニ付テハ入坑時刻欄ニハ所定入坑終了時刻ヲ記載スベシ
- 六 延長時間欄ニハ其ノ者ノ入坑ヨリ出坑迄ノ時間ガ第五條第一項又ハ第六條ノ二第一項ノ時間ヲ超エタル場合ニ於テ其ノ超エタル時間ヲ記載スベシ
- 第七條ノ二第二項ノ許可アル場合ニ於テ所定入坑時間内ニ入坑シ所定ノ出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付テハ前項ノ延長時間ノ計算ニ關シテハ所定入坑終了時刻ヲ其ノ者ノ入坑時刻トス
- 七 深夜就業時刻欄ニハ第七條ノ定ムル就業禁止時刻中ニ就業セシメタル十六歳未満ノ者若ハ女子ニ付其ノ就業時刻ヲ記載スベシ
- 八 事由欄ニハ前二號ニ該當スル場所ニ其ノ事由ヲ記載スベシ
- 九 第七條ノ二第三項ノ許可アル場合ニハ坑内ノ點檢場所ヲ以テ坑口トス

鑛夫就業扶助規則第十一條ノ二ノ特例ニ關スル件

(昭和八年六月五日内務省令第十六號
昭和十六年五月十四日厚生省令第十七號改正)

鑛業權者ハ主トシテ殘炭ヲ採掘スル石炭坑ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ當分ノ内鑛夫就業扶助規則第十一條ノ二ノ規定ニ拘ラズ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年五月十四日厚生省令第十七號附則

本令ハ昭和十五年法律第百二號(第十條ノ改正規定ヲ除ク)施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス